法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-03-14

和仏法律学校講義録

鶴見，守義 / 田中，遜 / 清水，澄 / 秋山，雅之介 / 板倉，松太郎 / 加藤，正治 / 松浦，鎮次郎

(出版者 / Publisher)
和佛法律學校
(巻 / Volume)
12
(号 / Number)
高等科
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
46
(発行年 / Year)
1903-06-27

（明治三十六年十一月四日第三種郵便物認可　毎月十九回一日五日六日八日十日十一日十二日十三日十五日十六日廿日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行）

明治三十六年六月二十七日發行

三十六年度　高等科ノ十二

和佛法律學校講義錄

第百參拾五號

和佛法律學校

高等科第十二號目次

民法

○質權ニ付テノ講演……法學士 板倉松太郎

商法

○船長ノ法律上ノ地位、航海中船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於ケル新舊所有者ト船長トノ關係ニ關スル推問……法學士 加藤正治

行政法

○營造物ニ付テノ推問……法學士 松浦鐵次郎

刑事訴訟法

○現行犯ノ處分、證人訊問、鑑定ノ囑託及ヒ抗告ノ審級等ニ關スル推問……法律學士 鶴見守義

國際公法

○「トレント」號事件ニ關スル講演竝ニ推問……法學士 秋山雅之介

答案批評

○憲法答案批評……法學士 清水澄

○羅馬法（自一七七頁至一九二頁）……アンドロール 田中遞

雜報

○最近判例要旨彙報

090
1903
4-12

質權ニ付テノ講演

法學士 板倉松太郎

質權ノ定義ハ民法第三百四十二條ニ規定セリ本條ニ依レハ質權トハ質權者カ其債權ノ擔保トシテ債務者又ハ第三者ヨリ受取リタル物ヲ占有シ且其物ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ナリト謂フヘキナリ然レトモ予ハ左ノ如ク定義ヲ下スヲ以テ完全ナリト信ス曰ク

質權トハ債權ノ擔保トシテ債務者又ハ第三者ヨリ受取リタル物ヲ留置シ之ヲ用益シ且其物ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル物權ナリ

ト此定義ハ民法第三百四十二條ニ記載セル文詞ニ比スレハ「占有」ヲ「留置」ニ更ヘ尚ホ本條ニ加フルニ「用益」ナル文字ヲ以テシ「權利」ヲ「物權」ト改メタルノ差アリ

其理由ハ第二ニ占有者ナルモノハ其占有物ニ付テハ留置權ヲ生スルコトナル
ハ明カナリト雖モ占有者カ其占有物ニ對シテ留置權ヲ有スルニハ其物ニ關シ
テ生シタル債權ヲ有セサルヘカラス(第二九五條參照)然ルニ質權者カ質物ニ對
シテ留置權ヲ有スルハ其物ニ關シテ生シタル債權ヲ有スルコトヲ要スルニ非
ス債權者カ其債權ノ擔保ノ爲メニ設定スルモノナルカ故ニ「占有ナル文字ニハ
當然留置權ヲ包含スルモノト解スルコトヲ得サレハナリ(第二ニ「用益」ナル文字
ヲ加ヘタルハ即チ「用益」トハ利用及ヒ收益ヲ略シタル語ニシテ後ニ述フルカ如
ク質權者ハ或場合ニハ質物ヲ使用シ又ハ轉質スルコトヲ得ヘク又質物ヨリ果
實ヲ生シタルトキハ之ヲ收取スルコトヲ得ヘシ此等ノ權利ハ質權ノ效力トシ
テ生スルモノナルカ故ニ定義中ニ加フルノ必要アレハナリ而シテ予ノ下シタ
ル定義ニ依レハ質權ハ四箇ノ分子權ヨリ成立ス第一優先權第二追及權第三留
置權第四用益權即チ是ナリ左ニ之ヲ說明セン

第一　優先權　優先權ノ如何ナルモノナルヤハ既ニ諸子ノ知ル如クニシテ之
ヲ質權ニ付テ言フトキハ質物ノ賣却代價ニ對シ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債

權ノ辨濟ヲ受クルノ權利ナリ然レトモ此優先權ハ常ニ如何ナル場合ニ於テモ
他ノ債權者ニ對シテ第一位ヲ有スルモノト謂フコトヲ得ス即チ此權利ハ一般
ノ先取特權ニ對シテハ優先權ヲ有スルコトハ法文ノ規定上明カナリ即チ第三
百三十四條ニ依レハ動產質權者ハ第三百三十條ニ揭ケタル第一順位ノ先取特
權者ト同一ノ權利ヲ有シ而シテ第三百三十條ニハ特別ノ先取特權カ競合スル
場合ニ先順位者ヲ規定セリ而シテ第三百二十九條ニ依レハ特別ノ先取特權ハ
一般ノ先取特權ニ先ツコトヲ規定スルカ故ニ此數條ヲ參酌スルトキハ質權ハ
一般ノ先取特權ニ先ツモノト論決スルコトヲ得唯例外トシテ共益費用ノ先取
權者ニ先ツコトヲ得ス次ニ質權者ハ第三百三十條ニ揭ケタル第二號以下ノ特
別ノ先取特權ニ先ツモノナルコトモ亦此數條ノ規定ニ據リテ明カナリ唯茲ニ
述スヘキハ質權者カ質物ヲ第三者ニ代理占有ヲ爲サシメタル場合ニ於テ其占
有者カ保存費ヲ支出シタルトキハ第二百九十五條ノ規定ニ依リ留置權ヲ有スル
ヲ以テ質物ヲ引渡サヽルコトヲ得ヘシト雖モ若シ占有者カ任意ニ質物ヲ引
渡シタルトキハ最早留置權ヲ失ヒタルヲ以テ此場合ニハ質權者ト代理占有者

トノ債權カ競合スルコトアリ此場合ニ付テハ少シク疑アリト雖モ理論上ロリ之ヲ決スルコトヲ得ヘク即チ代理占有者ハ總合占有物ヲ引渡シタルニモセヨ其權利ハ質權者ニ優ルモノト決セサルヘカラス何トナレハ質權者カ質物ニ對シテ其權利ヲ行使シ得ルハ占有者カ保存費ヲ支出シタルニ因ルモノニシテ質權者カ其權利ヲ行ヒ得ルハ代理占有者ノ保存ノ爲メナリトセハ公平ノ理論ロリ觀ルモ代理占有者ヲ保護セサルヘカラサレハナリ但立法者ハ注意ノ爲メ第三百三十條第二項ニ同一ノ論決ニ歸スル規定ヲ設ケ而シテ此規定ハ質權ニ準用セラルルモノナリ

不動產質權ニ關シテハ質權者ハ不動產保存ノ先取特權者及ヒ不動產工事ノ先取特權者ニ對シテハ優先權ヲ行フコトヲ得ス其理由ハ不動產質權ハ元來抵當權ト同一ノ效力ヲ有スルニ過キサルモノナリ(第三六一條)而シテ抵當權ト先取特權ト競合スル場合ニ於テハ民法第三百三十七條乃至第三百三十九條ニ依リ先取特權ハ抵當權ニ先ツモノナルカ故ニ臨テ此先取特權ハ抵當權ト同一ノ效力ヲ有スル不動產質權ニ先ツモノナリ但不動產保存ノ先取特權及ヒ工事ノ先取特權カ抵當權ニ先ツニハ登記スルコトヲ要ス即チ保存ノ場合ニ於テハ其行爲完了ノ後直チニ、又工事ノ場合ニ於テハ其工事ノ始マル前ニ費用ノ豫算額ヲ登記セサルヘカラス故ニ此二ノ先取特權ハ登記スルトキハ質權ノ設定後ニ於テモ質權者ニ先ツモノナリ次ニ不動產賣買ノ先取特權ト質權トノ順位ハ登記ノ前後ニ依リ定マルモノトス(第三四一條第三七三條第三六一條參照)

第二　追及權　追及權トハ質權ニ付テ云フトキハ質權設定者カ質物ヲ他人ニ讓渡シ又ハ質物ニ他ノ物權ヲ設定シタル場合ニ於テ質權者カ讓受人又ハ物權ノ取得者ニ對抗シテ自己ノ權利ヲ行使シ得ルヲ謂フ質權ニ關スル追及權ノ實用ハ主トシテ不動產質ノ場合ニ在リ即チ物權ノ移轉ハ當事者ノ意思表示ノミニ依リテ效力ヲ生スルモノナルカ故ニ質物ヲ讓受ケタル第三者カ之ヲ登記シタル場合ニ於テモ質權者ハ此追及權ニ依リ取得者ニ對抗スルコトヲ得ルモノナリ然レトモ一般ノ場合ニ於テ不動產ニ關スル物權ハ登記ヲ爲ササレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルヲ以テ不動產質權者ト雖モ登記ヲ要スルハ勿論ナ

追及權ニ付テ尙ホ一言スヘキモノアリ即チ質權ハ第三百五十條ノ規定ニ依リ第三百四條ヲ準用セラルルヲ以テ其權利ノ目的物ノ賣却、滅失等ニ因リ債務者カ受クヘキ金錢其他ノ物ノ上ニ及フモノナリ故ニ質權ハ單ニ質物ノ上ニ行ハルルノミナラス質物ノ對價又ハ之ニ代ル物ノ上ニ行ハルルコトアリ此狀態ヨリ觀ルトキハ是レ一ノ追及權ノ效力ナルカ如シト雖モ我民法ニ於テハ此ノ如キ場合ハ追及權ノ適用トセスシテ優先權ノ擴張ナリトセリ是レ本法起草者ノ說明スル所ナリ故ニ我民法上質權ヲ組成スル分子タル追及權ハ其質物ニ對スル物權ヲ凌駕スルノ權利ナリト云フニ歸著ス此點ヨリ觀ルトキハ追及權ナル文字ハ字義不穩當ナルカ如シト雖モ舊民法ノ母法タル佛法ヨリ來ル沿革上ノ理由ヨリ出ヲタルモノニシテ佛法ノ「ドロアドプールシュイット」ナル文字ヲ追及權ト譯シタルカ故ナリ

右ノ如ク追及權ハ物權者ヲ凌駕スル權利ナリト解スレハ予ハ寧ロ追及權優先權ノ二者ヲ區別セスシテ一ノ優先權ト稱スルヲ以テ其當ヲ得タルモノナリト信ス何トナレハ此二者ノ區別タルヤ物權債權ノ區別等ト大ニ其趣ヲ異ニシ此二者ハ元來一箇ノ物權ヲ組成スル分子權ニシテ其權利ヲ對抗スル相手方ニ依リ區別ヲ爲スモノ即チ物權者ニ對抗スル場合ニハ追及權ト謂ヒ債權者ニ對抗スル場合ニハ優先權ト謂フニ過キナレハナリ加之優先權其レ自身カ或場合ニハ物權者ニ對抗スルコトアリ例ヘハ不動產質權者カ抵當權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル場合アルカ故ニ此二權ノ效力アルモノヲ稱シテ優先權ト云フモ毫モ差支ナキナリ

第三　留置權　玆ニ所謂留置權トハ第二百九十五條ニ規定セルモノトハ大ニ其趣ヲ異ニス第一、前者即チ純然タル留置權ハ留置物ニ關シテ生シタル債權ナラサルヘカラス然ルニ後者即チ質權者ノ有スル留置權ハ質物ニ關シテ生シタル債權ニ非ス質物アリテ後ニ留置ノ原因タル債權ノ生シタルニ非ス前者ハ留置權ハ其原因タル債權ト離ルヘカラサル關係ヲ有ス後者ハ留置ノ原因タル債權ハ必スシモ留置權ト分離スヘカラサルモノニ非ス故ニ前者ト後者トハ性質上ノ差異アリ第二、前者ハ如何ナル債權者ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得ルニ反シテ後者ハ或場合ニ於テハ之ニ對抗ス能ハサル事情ヲ例ヘハ動產質設定ノ當時

其質物ヲ保存スル債權者又ハ其ヲ知ラザル質物ヲ受取ラザル場合ニ於テハ質權者ハ其保存者ニ對抗スルコトヲ得ザル筈ノナリ(第三三〇條第二項)不動産ナルトキハ其質權ノ登記前ニ抵當權者アルトキハ質權者ハ其抵當權ニ對抗スルコトヲ得サルカ如シ

茲ニ一言スヘキハ質權者ハ何故ニ留置權ヲ有スルノ必要アルヤノ點ナリ或曰ハン留置權ヲ與ヘスト雖モ質權者ハ競賣法ニ依リ競賣シテ辨濟ヲ得フルルニ非スヤト然レトモ質權者カ質物ヲ競賣ニ付シテ辨濟ヲ得ントスルニ當リ甚タ不利ナル場合アリ例ヘハ當時ノ市場ニ於テ質物カ一般ニ下落シタル如キ場合ニ於テハ質物ヲ留置シ置キ市價ノ騰貴スルヲ待チテ競賣スルノ必要アリト謂ハサルヘカラス是レ質權者ニ留置權ヲ與ヘタル所以ナリ

第四　利用權　茲ニ利用權トハ前ニ述ヘタル用益權ナリ換言セハ利用收益ノ權ナリ而シテ其主要ナルモノハ轉質ノ權ナリ是レ第三百四十八條ニ規定スル所ナリ轉質ノ性質ニ付テハ學者間ニ議論アリト雖モ轉質ナルモノハ先ツ二ノ關係ヲ生ス即チ質權者ト轉質權者トノ關係及ヒ質權設定者ト轉質權者トノ關係是ナリ轉質權者ト質權者トノ關係ニ付テハ「ボアソナード」氏ハ質權者カ其責任ヲ以テ生セシメタル寄託關係ナリト明言セリ即チ轉質權者ハ質權設定者ニ對シテハ受寄者ノ地位ニ在リ但之カ爲メニ自己ノ權利ヲ制限セラル詳言スレハ自己ノ權利ヲ行使シ得ルモ其權利ノ行使ハ或條件ノ下ニ制限セラレタル受寄者ナリト而シテ質權者ト轉質權者トノ關係如何ニ付テハ學者ハ解除條件附質權ノ讓渡ナリト說ケリ詳言スレハ質權者カ其債務ヲ辨濟シタルトキハ讓渡ノ效力消滅スヘシト云フ條件附ノ讓渡ナリト云フニ在リ蓋シ至當ノ見解ナラントト信ス何トナレハ質權者カ轉質ヲ爲シタルトキハ其質物ニ對シテハ何等ノ權利ヲ行フコトヲ得ス其權利ヲ行スコトヲ得ルモノハ轉質權者ナレハナリ茲ニ注意スヘキハ所謂讓渡ノ點ナリ質權者ハ轉質ヲ爲シタリト雖モ質權設定者ニ對シテハ依然質權者タルノ地位ヲ失ハサルモノナルコト是ナリ

轉質ノ制度ハ嚴正ナル理論ヨリ觀ルトキハ大ニ批難アルヲ免レサルヘシ即チ元來質權ナルモノハ債權ノ擔保ニシテ獨立シテ存在スルモノニ非ス故ニ此主

タル債權ト從タル質權トハ分離スヘカラサルモノナリ然ルニ轉質ナルモノハ此關係ヲ分離シ從タルモノヲ以テ他ノ主タルモノニ附屬セシムルモノナリ甲債權ト離ルヘカラサルモノヲ如何ソ他ノ乙債權ニ屬セシムルコトヲ得ンヤ此ノ如キ批難ハ免ルヘカラスト雖モ我民法ニ於テハ此制度ヲ認メタリ其理由ハ轉質ヲ認ムルモ質權設定者ニ何等ノ損害ヲ及ホスモノニ非スシテ質權者ノ爲メニハ甚タ便利ナリ又經濟上ヨリ之ヲ觀察スルモ甚タ有益ニシテ而モ質權設定者ニ毫モ損害ヲ與ヘス何トナレハ何人ト雖モ自己ノ有スルヨリ多少ノ權利ヲ他人ニ移轉スルコトヲ得サルヲ以テ轉質權者ハ質權者ノ有スル權利ヲ限度トシ質權ヲ行使スルニ過キス要スルニ轉質ハ何人ヲモ害セスシテ益アルカ故ニ之ヲ認メタルナリ而シテ我民法ハ老婆心ヨリ右質權設定者ノ權利ヲ保護スル爲メ第三百四十八條ヲ以テ轉質ノ條件ヲ明定セリ即チ第一ニハ轉質カ原質ノ存續期間ナルコトヲ要シ第二ハ轉質ヲ爲シタルニ因リ生シタル一切ノ損害ニ付キ責任ヲ負フヘク縱令不可抗力ニ因リテ生シタル損害ト雖モ其責ニ任セサルヘカラストセリ

尙ホ轉質ニ付テ一言スヘキハ轉質ヲ爲シタルトキハ轉質權者ノ占有ハ自己ノ爲メニスル占有ト質權者ノ爲メニスル占有トノ二資格ニ於テ占有スルモノナルコトヲ是ナリ故ニ質權者ノ質權ハ占有ノ喪失ニ因ル消滅ノ結果ヲ生スルコトナキナリ

以上ヲ以テ質權ノ定義及ヒ其說明ヲ終レリ尙ホ第四ノ中收益權ニ付テ一言セン即チ質權者カ質物ヨリ生スル果實ヲ收取シ自己ノ債權ノ辨濟ニ充テ其他質物ノ保存ニ必要ナル使用ヲ爲スコトヲ得ヘキコトヲ是ナリ

尙ホ終ニ一言スヘキハ質權ノ不可分性是ナリ留置權・先取特權ト同シク不可分ノ性質ヲ有スルコトハ第三百五十條ニ因リ明カナリ學者或ハ不可分權ナル名稱ヲ用フルト雖モ予ハ特ニ「不可分性」ト謂フ所以ハ前四箇ノ分子的權利ハ各獨立シテ之ヲ認識スルコトヲ得レトモ所謂不可分權ハ獨立セル權利トシテハ認識スルコト能ハス今不可分ト云フモ不可分ナルヘキ本體ナクシハ之ヲ了解スルコト能ハサルヲ以テナリ而シテ質權ノ不可分トハ質物ノ各部分ヲ以テ債權ノ全部ヲ擔保シ又質物ノ全部ヲ以テ債權ノ各部分ヲ擔保スルノ義ニシテ此特

性ノ效力ハ第一ノ債權者ハ質物ノ一部ニ對シテ其權利ヲ拋棄スルモ他ノ部分ノ上ニ其全權ヲ行スコトヲ得ベク第二質物ノ一部カ天災ニ因リ滅失シタル部分ノ上ニ其全權ヲ殘存スル部分ヲ以テ擔保ナシ第三、債權ノ一部ニ付キ辨濟ヲ受ケタルモ其辨濟ヲ受ケタル部分ニ相當スル質物ノ部分ヲ返還スル義務カタ第四、其同債務者ノ一人カ其負擔部分ヲ辨濟スルモ其返濟セル金額ニ相當スル質物ノ一部ノ返還ヲ求ムルコト能ハサルコトヲ得ルナリ　以テ質權ニ備ハラシメサルコトヲ得ルナリ　是ナリ又此不可分性ハ當事者ノ意思ヲ

船長ノ法律上ノ地位、航海中船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於ケル新舊所有者ト船長トノ關係ニ關スル推問

法學士　加藤　正治

本日ハ諸君ヨリ提出セラレタル問題ニ就キ先ツ予ヨリ質問ヲ發シ適宜予ノ意見ヲ述ヘンス

講師　第一ノ問題ハ船長ノ法律上ノ地位如何ト云フ問題ナルカ先ツ此問題ニ付キ質問センコト船長ト船舶所有者トハ如何ナル關係ニ立ツモノナルカ

甲生徒　法定代理人ノ關係ナリ何トナレハ法律ノ規定ニ依リ船長ニ一定ノ代理權ヲ付與シタルモノナレハナリ

乙生徒　雇傭關係ナリ即チ船長ハ船舶所有者ノ爲メニ一定ノ勞務ニ服シ又船舶所有者ハ船長ニ對シ一定ノ報酬ヲ支拂フモノナレハナリ

講師　予ハ雇傭ト委任トニ資格ノ併合セル關係ニ立ツモノナリト信ス即チ第五百四十四條第二項ニ依レハ雇傭ニ因リテ生シタル船員ノ權利云云ノ規定アリ又第六百八十條第一項第七號ニモ「雇傭契約ニ因リテ生シタル船長云云」トアリ總テ此等ノ規定ニ依リテ考フルニ船長ト船舶所有者トカ雇傭契約關係ニ立ツモノナルコトハ頗ル明瞭ナリ又船長ト所有者トノ關係カ雇傭契約ノミトスルトキハ船長ハ勞務ニノミ服スルコトト爲リ他ノ點ヲ說明スルコト能ハサルニ至ル然ルニ船長ハ勞務ニ服スルノミナラス法律行爲ヲ爲スノ權限ヲ有スルコトハ第五百六十六條以下三條ノ規定スル所ナリ此等ノ代理權ハ元來法律カ當然授與シタルモノニ非スシテ船舶所有者カ委任契約ニ因リテ授與シタルモノナリ而シテ法律ハ唯其權限ノ範圍ヲ定メタルニ過キサルナリ我民法ニ於テハ代理權授與ハ法律ノ外委任ニ因リテ授與スヘキモノナルコトノ說ヲ解釋上可ナリト信スルヲ以テ此船長ノ代理權ハ委任ニ因リテ授與セラレタルモノト解セサルヘカラス唯其普通ノ範圍ヲ法律ニ於テ之ヲ定メ若シ當事者カ特約ニ依リテ之ヲ制限スルモ善意ノ第三等ニ對抗スルコトヲ得サルモノトセリ尙ホ其委任關係ノ存スル證據トシテハ第五百六十三條第五百六十六條第五百六十九條ニ委任ナル文字ヲ用ヒ第五百七十四條ニ於テ解任ナル文字ヲ用ヒ海員ノ場合ノ如ク雇止ナル文字ヲ用ヒサルニ依リテモ之ヲ推知スルコトヲ得ヘシ若シ船長ヲ以テ船舶所有者ノ法定代理人ナリト謂フトキハ船舶管理人又ハ支配人ノ如キモ亦同シク法定ノ範圍ヲ定メラレタル代理權ヲ有スルモノナルカ故ニ法定代理人ナリト謂ハサルヘカラサルニ至ル故ニ予ハ諸君ト異ナリ二ノ契約關係ニ立ツモノナリト斷定シタルナリ

生徒　船長ハ航海中或場合ニ於テハ積荷ヲ質却スルコトヲ得ル規定アリ例ヘハ第五百六十八條第三號ニ規定セル場合ノ如シ此場合ニ於テ船長ハ積荷所有者ノ代理人トモ謂フヘキニ非サルヤ

講師　第五百六十八條第三號ノ場合ト第五百六十五條第一項ノ場合トハ混淆スヘカラス第五百六十八條第三號ノ場合ハ積荷所有者ノ代理人トシテ此ノ如キ權限ヲ與ヘタルニ非スシテ全ク航海繼續ノ必要費用支辨ノ爲メ積荷ヲ

賣却又ハ質入スルコトヲ許シタルモノニシテ事ハ船舶所有者ノ代理人トシテ爲ス所ナリ之ニ反シテ第五百六十五條第一項ノ場合ハ質問ニ言フ如ク船長ハ積荷ノ利害關係人ノ法定代理人トシテ爲ス所ナリ故ニ積荷ノ利害關係人ニ對シテハ船長ハ第五百六十五條第一項ニ依リ法定代理人ト爲ルナリ

生徒　若シ船長カ船舶ノ一部ヲ所有スル者ナルトキハ他ノ船舶所有者トノ關係如何

講師　此場合ハ船長ハ一面船舶共有者ノ資格ヲ有スルコト勿論ニシテ他ノ一面ニ於テハ船長トシテノ普通ノ權利義務ヲ有スルコト勿論ナリトス但第五百七十四條第二項ノ如キハ船長カ同時ニ船舶共有者タル場合ニ於ケル特別規定ナリトス

講師・次ノ問題ハ「船舶ヲ航海中讓渡シタルトキハ新舊所有者ト船長トノ關係如何」ノ問題ナリ此問題ニ對スル諸君ノ見解如何

生徒　船長ト舊所有者トノ關係ハ依然繼續スヘシ而シテ新所有者トノ間ニ何等ノ關係ヲ生セス何トナレハ縱令航海中ト雖モ雇傭ヨリ生スル權利ハ常ニ勞務者ノ承諾アルニ非サレハ使用者ハ之ヲ第三者ニ移轉セシムルコトヲ得サレハナリ(民法第六二五條第一項)

講師　然リ船長ト舊所有者トノ關係ヨリ先ツ之ヲ觀察セン凡ソ契約ノ效果ハ當事者間ニノミ存在スルヲ例トスルカ故ニ今航海中ノ船舶ヲ讓渡シタル場合ニ於テモ船長ニ付テハ何等ノ特別ノ明文ナキカ故ニ船長ハ舊所有者トノ間ニ依然トシテ契約關係ヲ立ツモノナリ新所有者ト船長トノ關係ニ付テハ船長ノ承諾ナキニ舊所有者ハ船ニ雇傭契約ヨリ生ズル權利ヲ新所有者ニ讓渡スコトヲ得サルハ前揭民法ノ明文ニ據リテ明カナリ然レトモ船舶所有權ノ讓渡モ亦其登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非ザレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルコトハ第五百四十一條ニ據リ明カナルカ故ニ未タ此手續ヲ終ラサル間ハ第三者タル船長ニ對シテモ亦船舶所有權ノ讓渡ヲ對抗スルコトヲ得ス又第五百四十二條ニ依リ航海中ニ在ル船舶ノ所有權ヲ讓渡シタル場合ニ於テ特約ナキトキハ其航海ニ因リテ生スル損益ハ讓受人ニ歸スヘキ筈ナリ但雖モ之ヲ得テ船長ハ舊所有者トノ關

係ヲ離脱シタ直チニ新所有者トノ間ニ契約關係ニ立ツモノト解スルカラ國是レ猶ホ舊所有者カ該航海ノ爲メニ石炭ヲ購入シ未タ其代價ヲ支拂ハサル場合ニ於テ航海中該船舶ヲ讓渡シタルトキハ石炭賣主タル債權者ハ舊所有者ニ對シテ石炭代金ヲ請求スヘク而シテ舊所有者ハ復ヒ新所有者ニ對シテ石炭賣主ニ支拂ヒタル代價ヲ請求スヘキモノトスルカ如シ之ト同シク船長ハ舊所有者ニ對シテノミ總テ權利ヲ有シ義務ヲ負フ唯疑問ト爲ルハ此場合ニ船長ハ新所有者ニ對シテ事務管理者ノ地位ニ立ツヤノ點ナリトス

此場合ニ於テハ理論上ハ船長ハ新所有者ノ爲メニ事務管理者ノ地位ニ立ツコトヲ豫想シ得サルニ非スト雖モ航海中船舶カ讓渡サレタル場合ノ如キハ當時船長カ船長トシテ行ヒツツアル職務權限ハ總テ皆是レ舊所有者トノ間ニ存セル契約上ノ效果ニ基クモノニシテ隨テ他人ノ爲メニスル事務ノ範圍ハ毫モ之レ無シト云フコトヲ得ヘク又義務ナクシテ云云ト云フ條件ヲ缺クモノナリ何トナレハ其職務權限トシテ行ヒツツアル行爲ハ總テ契約上ヨリ生シタル義務履行ニ過キサレハナリ故ニ新所有者ニ對シテ事務管理者ノ地位ニ在リトモ亦言フヘカラス

唯終ニ一言スヘキ點ハ船長ハ第六百八十條ノ規定ニ依リ船舶ノ上ニ其給料等ノ債權ノ爲メニ先取特權ヲ有スルカ故ニ若シ船舶讓渡カ自己ノ爲メニ不利益ナリト信スルトキハ前掲第五百四十一條ノ規定ニ依リ同樣ノ手續カ求タ完了セサル間ハ其讓渡アリタルコトヲ拒ムコトヲ得ルナリ

被セタル和解ハ肥ヒタル訴訟ニ勝ル

Ein magerer Vergleich ist besser als ein fetter Prozess.

營造物ニ付テノ推問

法學士　松浦鎭次郎

本日ハ營造物ニ付テ研究セント欲スル命令ニ關シ諸氏ノ高説ヲ聞ク

講師　裁判所ハ營造物ナリヤ

生徒　裁判所ハ裁判ナル命令權ヲ行使スルモノナルカ故ニ營造物ニ非スヘシ

講師　官公立ノ學校ハ如何

生徒　學校ハ命令權ヲ行使スルヲ目的トスルモノニ非ス故ニ營造物ナリ

講師　學校ニ於テ生徒ニ對シテ行フ所ノ懲戒ノ如キモ一種ノ命令權ノ作用ニ非スヤ

生徒　是ハ學校ト生徒トノ合意ニ基クモノニ過キスシテ一種ノ契約ナリ

講師　學校ニ於ケル懲戒ノ如キモ命令權ノ作用ニ非スト云フカ然ラハ命令權

[illegible]ノ作用トハ如何ナル種ノ作用ヤ命令[illegible]ニ非スシテ[illegible]

生徒　命令權ノ作用ト云ヘハ總テノ人ニ對シテ或事ヲ強制ヲ行フコトヲ意味スルナリヤ

講師　命令權ノ作用ハ必ス總テノ人ニ對シテ或事ヲ强行スルモノカリト言ハ[illegible]警察規則ニ於テ特ニ或種ノ營業者例ヘハ銃砲彈藥商者クハ氷屋ノ如キ者ニ對シ或事ヲ爲スヘシト命スル場合ノ如キハ總テノ人ニ對スルニ非スシテ特ニ或種ノ人ニ對スル意思ノ制限ナルカ故ニ命令權ノ作用ニ非スト謂ハサルヘカラサルニ至ラン然レトモ此ノ如キハ普通ノ觀念ニ反ス抑モ學校生徒カ學校ノ紀律ニ服從スルハ官吏カ國家ノ命令ニ服從スルト異ナルカ

生徒　官吏ハ命令ニ依リ任命セラルルモノニシテ學校ノ生徒カ自由意思ヲ以テ學校ニ入學スルト異ナリ故ニ官吏ノ國家ニ對スル關係ハ生徒カ學校ニ對スル關係ト異ナレリ

講師　予ハ官吏ノ任命ヲ以テ命令ニ依ルモノナリト思考セス又學校ノ入學モ常ニ必スシモ生徒ノ自由意思ニ依ルモノニ非ス然レトモ此等ノ事ハ姑ク措キ生徒カ學校ノ紀律ニ服從スルノ關係ハ官吏カ國家ノ命令ニ服從スルノ關係ト異ナルヲ以テ命令權ノ作用ニ非スト謂フヲ得ス

生徒カ學校ノ紀律ニ服從スルノ關係ハ官吏カ國家ノ命令ニ服從スルノ關係ト異ナル所ナシ即チ學校ハ生徒ニ對シテ命令權ヲ行フモノナリ唯學校ニ於テ紀律ヲ正シ懲戒ヲ行フハ學校ノ主タル作用ニ非ス學校ノ主タル作用ハ生徒ニ智識技能ヲ授ケ其人物ヲ陶冶スルカ如キ事實的ノ作用ナリ紀律懲戒ハ右ノ作用ヲ助クルニ過キス故ニ學校ハ裁判所ノ如ク命令權ヲ行フコトヲ主タル目的トスルモノニ非ス隨テ此點ニ於テハ官公立學校ハ裁判所ト異ナリテ營造物ノ觀念中ニ入リ得ルナリ

講師　更ニ問ハン堤防ノ如キハ營造物ナリヤ

甲生徒　公衆ノ使用ニ供セラレサルモノナルカ故ニ營造物ニ非ス

乙生徒　或物カ營造物タルニハ直接公衆ノ使用ニ供セラルルコトヲ必要トスルル又ハ公共ノ用ニ供セラルルノミヲ以テ足ルカニ付テハ大家ノ說二分シテ予輩其取捨ニ迷フ

講師　營造物カ行政法上ノ問題ト爲ルハ主トシテ公衆カ之ヲ使用スル事ニ關シテナリ故ニ直接ニ公衆ノ用ニ供セシムル目的ヲ有スル特ノミヲ營造物

トシテ研究シ單ニ公共ノ用ニ供セラルルモノハ別ニ之ヲ研究スルヲ宜シトス我行政法ニ於ケル營造物ノ觀念モ亦此點ニ付テハ玆ニ述ウルカ如クナリト信ス

講師　尚ホ問ハン官署ハ營造物ナルヤ

生徒　官署ハ行政權ヲ行フ者カ用フル所ノ事務所ニ過キス故ニ營造物ニ非ス

講師　營造物ト云ヘハ其作用自身カ行政ナラサルヘカラス

講師　營造物ノ組成分子ハ如何

生徒　單ニ物ノミヲ以テ成ル場合アリ或ハ物ト人ノ働トカ相集リテ成ル場合アリ

講師　營造物ハ即チ行政ノ作用ナリトセハ營造物ヲ設置シ得ル者ハ國家又ハ公共團體ニ限ラサルヘカラサルカ如シ如何(獨逸等ニハ營造物ニシテ自身人格ヲ有スルモノアリ此ノ如キモノハ我國ニナシ)

生徒　私設鐵道ノ免許ハ國家カ私人ヲシテ鐵道ナル營造物ヲ設置セシムルモノニシテ此場合ニ於テハ私人ハ國家ノ機關タル地位ニ立チテ營造物ヲ設置スルモノナリト云ヒ得サルヤ

講師　學者或ハ此ノ如キ說ヲ唱フル者ナキニ非ス然レトモ予ノ見ル所ニ依レハ少クトモ我行政法ニ於テハ鐵道敷設ノ免許ハ私人ニ國家ノ機關トシテ營造物ヲ設ケシムルノ趣旨ヲ有セシテ唯公益ノ爲メ一般ニ禁シテ特ニ之ヲ許スノ意味ヲ有スルニ過キス鐵道會社ノ如キハ唯一箇ノ營業トシテ一面ニハ商法ノ規定ニ從ヒ一面ニハ鐵道營業法ノ規定ニ從ヒ其事業ヲ爲スモノニシテ國家ノ機關タリトノ特徵ハ何處ニモ之ヲ發見スルコト能ハス隨テ私設鐵道ハ營造物ニ非ス又彼ノ公共道路ノ上ニ敷設スル私設軌道ノ如キモ營造物ニ非ス軌道ノ特許ハ唯道路使用ノ許可ト營業免許ノ二者ヲ混合セルモノニ過キスシテ公ノ事業ヲ私人ニ委任スルノ趣旨ハ何處ニモ見ルヘカラス

講師　以上ニ依リ營造物ノ性質ハ略ホ明カナルヘシ即チ營造物トハ物又ハ人ト物トヨリ成リ主トシテ命令權ノ作用ニ依ラスシテ直接ニ公衆ニ使用セシムルモノニシテ其作用自身カ行政ナルモノヲ謂フナリ

講師　次ニ營造物ノ使用ニ付テ少シク問ハン吾人カ上野公園內ニ在ル帝國圖

書館ヲ圖書館規則ニ從ヒテ使用ヲ許可セラレタル時ハ公國家ヨリ其使用ヲ妨ケラレサル公法上ノ權利ヲ有スルヤ

生徒　權利アリ

講師　權利ハ法規ノ認ムル所ニ依リテ生スルモノナリ今諸君ノ所謂權利ナルモノハ何レノ法規ニ依リテ認メラルルヤ

生徒　不明ナリ

講師　諸君カ權利アリト言ヘルハ誤レリ彼ノ上野圖書館ノ閲覧規則ノ如キハ公布ヲ爲シタルモノニモ非ス勿論法規ニ非スシテ唯圖書館職員ニ對スル職務規程ニ外ナラス而シテ便利ノ爲メ之ヲ閲覧者ニ見セシムルナリ故ニ吾人ハ此規則ニ依リテ決シテ權利ヲ得ルコトナシ(之ニ反シテ市町村ノ營造物ノ使用規則ノ如キハ市町村住民カ本來有スル使用權ノ範圍ヲ定ムルモノニシテ且公布ノ手續ヲ爲スモノナルカ故ニ之ヲ一箇ノ法規ナリト謂ハサルヘカラス)

講師　營造物ノ使用許可ト警察上ノ許可(普通ノ許可)トハ如何ナル差異アリヤ

甲生徒　差異ナシ

乙生徒　差異アリ警察上ノ許可ハ元來禁止ナケレハ吾人カ自由ニ爲シ得ヘキコトヲ職メ一般ニ禁シ置キ特定ノ場合ニ其禁ヲ解クモノナルモ營造物ノ使用ハ特ニ一般ノ禁止ナクトモ吾人カ初メリ之ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス故ニ使用許可ハ特定ノ場合ニ一般ノ禁ヲ解クモノニ非スシテ唯特定ノ場合ニ其使用ヲ認容スルノミ

講師　乙生ノ說正當ナリ警察上ノ許可ハ元來吾人カ自由ニ爲シ得ヘキコトヲ法規ヲ以テ特ニ禁セラレタル行爲ト爲シ特定ノ場合ニ其禁ヲ解クモノナルカ故ニ警察上ノ許可ヲ爲スニハ第一ニ一般ノ禁止法規第二ニ特定ノ場合ニ此禁ヲ解キ得ルコトヲ規定セル法規アルヲ必要トス之ニ反シテ營造物ノ使用許可ハ元來人カ自由ニ爲シ得サル使用ヲ特ニ許容スルモノニシテ一般ノ禁ヲ解クニ非ス故ニ警察上ノ許可ノ如ク禁止ノ法規ヲ要セス又一般ノ禁止ヲ特定ノ場合ニ解キ得ルコトヲ規定セル法規ヲ要セス上野圖書館ノ場合ノ如ク內部ノ職務規程ノミニテ自由ニ使用許可ヲ爲シ得ルナリ而シテ予カ人

元來營造物ノ使用ヲ自由ニ爲シ得ザルモノナリト雖ヘルハ如何ナル理由ナリヤト云フニ營造物ヲ組成スル物體ハ國家又ハ公共團體ノ所有又ハ占有ニ屬スルモノニシテ他人カ之ヲ侵スヿヲ得サルモノナリ唯國家又ハ公共團體カ之ヲ營造物ト爲シ人民ニ使用ヲ爲サシムルコトニ依リテ人民カ之ヲ利用シ得ル狀態ニ立チ至ルニ過キス故ニ營造物トシテノ使用ノ許可アキニ人民カ恣ニ之ヲ利用スレハ忽チ所有權又ハ占有權ノ侵害ト爲ルヘク此點カ警察上ノ許可ノ場合ノ如ク一般ニ禁止ノ規定ナキ間ハ人民ハ自由ニ其禁止ノ目的タル行爲ヲ爲シ得ルモノト大ニ異ナルナリ此ノ如クナルカ故ニ此處ニ注意スヘキコトアリ彼ノ我河川法ノ規定ノ如ク河川及ヒ流水ハ私權ノ目的ト爲ラストセルモノニ在リテハ河川ハ元來何人ノ所有ニモ非サルカ故ニ一般ノ禁止ナキ間ハ人民ハ自由ニ之ヲ使用シ得ルナリ唯河川法ノ規定ニ依リ河川使用ノ場合ニハ許可ヲ受クヘシトアルニ由リテ始メテ一般ニ使用ヲ禁シテ特定ノ場合ニ之ヲ許スヘシトノ趣旨カ現ハルルナリ故ニ河川使用ノ許可ハ圖書館使用ノ許可等ト異ナリ一箇ノ警察上ノ許可ノ性質ヲ有スルナリ

生徒　海ノ如キハ營造物ト爲リ得ルカ

講師　海ノ如キハ人ノ支配シ能ハサルモノナルカ故ニ所有權ノ目的物ト爲ラス隨テ營造物トモ爲ラス然レトモ法規ヲ以テ特ニ之ヲ營造物ト爲シ得サルニ非ス

賣買ハ賃貸借ヲ破ル

Kauf bricht Miethe.

現行犯ノ處分、證人訊問、鑑定ノ囑託及ヒ抗告ノ審級等ニ關スル推問

法律學士　鶴見守義

講師　現行犯トハ如何

生徒　現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル犯罪ヲ謂フ

講師　犯罪ノ性質ヨリ現行犯、非現行犯ヲ區別スルカ

生徒　犯罪發覺ノ狀態ヨリ區別ス何トナレハ此區別ハ特別處分ヲ許ス爲メニ設ケタル區別ニ外ナラサレハナリ

講師　發覺トハ如何

生徒　捜査ヲ爲ス職權アル官吏カ犯罪事實ヲ覺知スルコトヲ謂フ

講師　然リ廣ク官ニ發覺スルモノト解スルヲ可トス何トナレハ官ト云フトキ

ハ檢事、司法警察官其他巡査憲兵卒ノミナラス豫審判事ヲモ包含スルカ故ナリ而シテ現行犯ノ場合ニハ何人ト雖モ逮捕スルコトヲ得ルヲ以テ此場合ニハ官ニ發覺スルモノナリト謂フコトヲ得ス然レトモ是レ唯一ノ例外ニシテ一私人カ犯人ヲ逮捕スルコトハ搜査官ニ發覺スルノ一ノ階段タルニ過キス何トナレハ此場合ニ於テハ直チニ官ニ告發スルコトヲ要スレハナリ

講師　豫審判事カ檢事ヨリ先ニ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ如何ニスヘキヤ

生徒　其事件急速ヲ要スルトキハ檢事ノ起訴ヲ待タス其旨ヲ檢事ニ通知シテ直チニ豫審處分ニ著手スルコトヲ得ルモノトス

講師　然リ而シテ今被告人カ現行犯ヲ犯シタリトシテ豫審判事モ自首シタルトキハ豫審判事ハ直チニ之ヲ訊問其他豫審處分ヲ爲スコトヲ得ルヤ

生徒　豫審判事カ此特別處分ヲ爲スコトヲ得ルハ犯所ニ臨檢シタル場合ナルコトヲ要ストノ議論ヨリスレハ本問ノ場合ハ豫審判事ハ特別處分ヲ爲スコトヲ得サルヘシト信ス何トナレハ刑事訴訟法第百四十二條第二項ニ「豫審判事ハ犯所ニ臨檢シ云云」トアルヲ以テナリ

講師　然レトモ本條第一項ハ却テ君ノ答ト反對ニ規定サルルニ非スヤ

生徒　前ノ答ハ不可ナリ同シク本問ノ場合ニ於テモ豫審處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ

講師　或ハ議論アルヤハ知ラスト雖モ法ノ精神ヨリ觀ルトキハ豫審判事カ現行犯ノ特別處分ヲ爲スニハ犯所ニ臨檢スルヲ必要ナリトス尙ホ此事ハ第百四十二條乃至第百四十四條ヲ熟讀セハ殆ト疑ナカラン

講師　檢事又ハ司法警察官カ現行犯アリタルコトヲ知リタルトキハ同シク犯所ニ臨檢スルニ非サレハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得サルヤ

生徒　臨檢スルヲ必要ナリト信ス

講師　然リ第百四十四條ニ依レハ「……犯所ニ臨檢シ云云」トアリ又第百四十六條ニ依ルモ同シク「第百四十四條ニ規定シタル處分ヲ爲スコトヲ得」トアルヲ以テ此等ノ諸點ヨリ觀ルトキハ臨檢スルヲ要スヘシ

講師　第百四十四條及ヒ第百四十六條ニハ檢事又ハ司法警察官ハ豫審判事ニ

屬スル處分ヲ爲スコトヲ得トアリ此規定ハ文字ノ示ス如ク任意規定ナルカ

生徒　法文ニハ「得」トアリテ宛モ任意規定ノ如クナリト雖モ事急速ヲ要スル場合ナルヲ以テ檢事又ハ司法警察官ニ對シテハ命令ノ規定ナリ

講師　若シ此等ノ者カ此規定ニ違反シタルトキハ如何

生徒　刑事訴訟法上何等ノ責任ナシ

講師　然リ然レトモ懲戒上ノ責任ハ免ルルヲ得サルベシ次ニ檢事カ犯所ニ臨檢シ此特別處分ヲ爲シタルトキハ爾後引續キ此處分ヲ續行スヘキモノナルヤ如何

生徒　檢事カ此特別處分ヲ爲シ得ルハ法律ノ命シタル特別ノ場合即チ急速ヲ要スル場合ニ限ルモノナルヲ以テ其特別ナル場合ノ外ハ引續キ處分ヲ繼續スルコトヲ得ス即チ豫審判事ニ事件ヲ引續カサルヘカラス而シテ豫審判事ニ引續クコトヲ得ルノ程度ニ達シタル以上ハ最早其處分ヲ續行スルコトヲ得サルモノトス

講師　然リ第百四十五條ヨリ觀ルモ此ノ如ク解セサルヘカラス

講師　豫審判事カ現行犯ノ豫審中其犯人ヲ發見シタルトキハ如何ニスヘキヤ

生徒　此場合ハ附帶犯ニ非サルヲ以テ檢事ノ起訴ナケレハ其犯人ニ對シテ豫審處分ヲ爲スコトヲ得ス

講師　然ラハ豫審判事ハ附帶犯ヲ發見シタルトキハ常ニ檢事ノ起訴ヲ待タス處分ヲ爲スコトヲ得ルヤ

生徒　前ノ答ハ不可ナリ之ヲ取消サン豫審處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ

講師　然ラハ茲ニ殺人ノ現行犯アリトセヨ豫審判事ハ急速ヲ要スルヲ以テ檢事ヨリ先ニ豫審處分ニ取掛リ其犯人ハ甲ト定テ檢證調書ヲ作リタルニ其場ニ於テ直チニ犯人ハ甲ニ非スシテ乙ナルコトヲ發見シタルトキハ如何

生徒　予ハ公訴ハ事件ニ對シテ起ルモノナリト信スルヲ以テ此場合ハ豫審判事ハ檢事ノ起訴ヲ待タスシテ乙ニ對シ豫審處分ヲ爲スコトヲ得ヘシト信ス

講師　然リ然レトモ現今多クノ學者及ヒ判例ハ公訴ハ人ニ對シテ起ルモノナリトノ說ナルヲ以テ此意義ノ下ニ本問ヲ試ミタルナリ而シテ予ノ考ニ依レハ縱令檢證調書ヲ作ルヲ以テ刑事訴訟法第百四十三條ニ依リ公訴ヲ受理シ

タルモノト看做サザルモ尚ホ現ニ犯罪ガ行ハレヤツアルカ又ハ行セ終リタル際ナル以上ハ他ノ者ニ對シテモ直チニ豫審處分ヲ爲スコトヲ得ルシ信ス

講師　是ヨリ證據ニ關シテ推問セン

凡ソ證人ヲ訊問スルニ當リテハ先ツ其證人ニ對シテ被告人ト刑事訴訟法第百二十三條ノ身分關係アルヤ否ヤヲ訊問セサルヘカラス(第一二一條)例ヲ以テ問ハンニ今東京地方裁判所ノ豫審判事カ甲ナル被告人ニ對スル或事件ニ付キ長崎ニ在ル證人ヲ訊問スルノ必要ヲ生シタルヲ以テ之ヲ長崎區裁判所判事ニ訊問ノ囑託ヲ爲セリ仍テ長崎區裁判所判事ハ六月五日式ニ從ヒ證人ノ訊問ヲ終レリ然ルニ是ヨリ先キ東京地方裁判所ノ豫審判事ハ六月三日ニ於テ甲ノ共犯人乙ナル者ノ起訴ヲ受ケタルニ因リ曩ニ囑託シタルト同一事件ナルヲ以テ乙ナル被告人カ其事件ニ併セ起訴セラレタル旨ヲ通知スルノ書面ヲ發送セリ然ルニ其書面ノ到達シタルトキハ既ニ曩ノ證人訊問ハ終了シタルヲ以テ通知ノ目的ハ之ヲ達スルコト能ハサリキ此場合ニ於テハ右證人ノ訊問調書ヲ採リテ證據ト爲シ裁判ヲ下スコトヲ得ルヤ如何

生徒　右證人訊問調書ハ甲ニ對シテハ有效ノ書類ナリト雖モ乙ニ對シテハ何等ノ效力ヲモ有セサルモノナルヲ以テ其訊問調書ハ乙ニ對シテハ之ヲ採用スルコトヲ得ス

講師　無效說ヲ主張スルニ於テハ甲ニ對シテモ第百二十三條ノ條件ヲ缺クヲ以テ無效ナリト論決セサルヘカラサルカ如シ如何

生徒　然レトモ其證人ノ甲ニ對スル關係即チ第百二十三條ノ關係ハ證人訊問ノ際之ヲ問査シタルヲ以テ甲ニ對シテハ有效ナレトモ乙トノ關係ハ問査セサルニ由リ乙ニ對スル證人トシテノ訊問手續ハ無效ナリト信ス

講師　若シ右證人ノ訊問調書ヲ以テ無效ノモノナリトセハ甲ニ對シテモ乙ニ對シテ共ニ無效ノ證ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ證人訊問當時ニ在リテ其事件ノ被告人タル甲乙二人ナルニ證人カ甲ト親屬等ノ關係アルヤヲ問査シタルノミニシテ乙トノ關係ヲ問査セサリシハ即チ相被告トノ關係ヲ取調ヘサリシモノニシテ刑事訴訟法第百五十一條ノ規定ニ違背シタル訊問調書タ

ルコトヲ免レサルヲ以テナリ故ニ甲乙間ニ於テ之ヲ區別スルノ理由ナシ

講師　是ト少シク問題ヲ異ニシテ甲者ノ訴訟事件ニ付キ鑑定ヲ爲スノ必要アルヲ以テ豫審判事ハ六月一日ニ式ニ從ヒ鑑定ヲ命シタルニ鑑定人ハ六月五日附ヲ以テ鑑定書ヲ差出シタリ然ルニ其鑑定書ヲ差出スニ先チ例ヘハ六月三日ニ乙ナル共犯人ニ對シ檢事カ豫審ヲ求メタリトセハ豫審判事カ鑑定人ニ對シ乙ト刑事訴訟法第百二十三條ノ身分關係アリヤ否ヤヲ問査セサリシ爲メ其鑑定書ハ無效ノモノト爲ルヤ否ヤ

生徒　前問ト同シク甲ニ對シテハ何等ノ妨ナシト雖モ乙ニ對シテハ證據ト爲スコトヲ得ス

講師　鑑定ニ付テモ刑事訴訟法第百三十六條ニ於テ同第百二十一條ヲ準用スルカ故ニ固ヨリ鑑定ヲ命スルニ方リテハ第百二十三條ノ關係ヲ訊問セサルヘカラスト雖モ既ニ鑑定ヲ命シタル後ナルトキハ縱令共犯人ニ對シ豫審請求アリトスルモ再ヒ前ニ命シタル鑑定人ヲ呼出シ第百二十三條ノ關係ヲ問査スルノ要ナカルヘシ隨テ予ハ本問ノ場合ニ於テハ其鑑定書ハ有效ノモノナリト信ス何トナレハ刑事訴訟法第百二十一條ニハ「豫審判事ハ證人トシテ呼出シタル者ニ對シ云云」トアルヲ以テ鑑定人ヲ呼出シ鑑定ヲ命スルニ當リ其當時起訴セラレタル被告人トノ身分關係ヲ問査シタル以上ハ毫モ法律違背ノ廉ナカルヘキヲ以テナリ前問ノ場合ニ於テモ亦受託判事ニモ寸毫ノ過失ナク囑託ヲ爲シタル豫審判事ニモ亦過失ナケレハ該場合ニ於テ證人ニ對シ乙トノ關係ヲ問査スヘシト云フハ難キヲ强フルモノニシテ第百二十一條ヲ設ケタル立法ノ趣旨モ亦此ノ如キ難キヲ强フルニ非サルヤ論ヲ俟タサル

講師　鑑定ハ他ノ裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ルヤ

生徒　證人ハ必ス特定ノ者ヲ訊問セサルヘカラサルカ故ニ遠隔ノ地ニ在ルトキハ便宜上他ノ裁判所ニ囑託シテ之ヲ訊問スルノ必要アリト雖モ鑑定ハ必スシモ特定ノ人タルヲ要セス特別ノ智識ヲ有スル者ニ命スルコトヲ得ルヲ以テ法律ハ鑑定ノ囑託ヲ認メサルモノナルヘシ

講師　然リ刑事訴訟法第百三十六條ニ第百三十二條ヲ準用スルコトヲ規定セ

ナルニ依リテ觀レハ立法ノ趣旨ハ成ル君ノ說ノ如クナラン然レトモ我邦現在ノ狀況ニ於テハ鑑案モ亦囑託シテ之ヲ爲サシムルコトヲ許ササレハ實際上不便ヲ感スルコトナシトセス故ニ鑑定モ亦囑託シテ之ヲ爲サシメサルヘカラス

講師　豫審判事ハ臨檢搜索物件差押ヲ他ノ豫審判事ニ囑託スルコトヲ得ルヤ

生徒　管轄區域外ニ於テハ勿論豫審判事ニ囑託スルコトヲ得ヘシ

講師　刑事訴訟法第百十二條ヲ見ルニ臨檢搜索物件差押等ノ事ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ許シタルモ豫審判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ許シタル文詞ナシ加之區裁判所判事ニ右事項ノ囑託ヲ爲スコトヲ得ル途ヲ開キアル以上ハ他ノ豫審判事ニ之ヲ囑託スルノ必要ナカルヘク又臨檢搜索物件差押等ノ事ハ證人訊問トハ異ナリテ裁判所ニ居ナカラ之ヲ爲スコト能ハス必スヤ他ニ出張セサルヘカラスシテ豫審判事ノ事務上ニ量ルヘカラサル障害ヲ來スノ恐アルヲ以テ法律ハ他ノ豫審判事ニハ右事項ノ囑託ヲ爲スヲ許ササルモノナリト信ス

講師　抗告ノ制度ハ一審制度ナルヤ又ハ二審制度ナルヤ

生徒　第二百九十四條第二項ニ依リ抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ抗告申立人ヨリ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得スト雖モ新ナル抗告理由ノ生シタルトキハ法理上更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキヲ以テ抗告モ亦三審制度ナリト信ス

講師　然リ乎モ亦抗告ハ三審制度ナリト信ス何トナレハ刑事訴訟法第二百九十四條第二項ニハ「抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ抗告申立人ヨリ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス」トアリテ抗告申立人ヨリハ再ヒ抗告ヲ爲スヲ得スト雖モ右ハ抗告ヲ申立ツル人ニ對シテ法律ハ一ノ制限ヲ附シタルニ過キスシテ抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ抗告ヲ許ササルノ趣旨ニハ非ス即チ被抗告人ヨリハ抗告ヲ爲スコトヲ得ルコトハ自ラ明カニシテ隨テ抗告事件ニ付テハ三審ノ裁判アルコト毫モ疑ヲ容ルヘキニ非サルヲ以テナリ

「トレント」號事件ニ關スル講演並ニ推問

法學士　秋山雅之介

「トレント」號事件トハ千八百六十一年乃至千八百六十四年米國ニ於ケル南北戰爭中南軍政府カ千八百六十一年十月ニ於テ「メーソン」氏ヲ英國ニ又「スライデル」氏ヲ佛國ニ使節トシテ派遣セントシ之ニ各一名ノ書記官ヲ附シ「チャーンストン」ノ封鎖ヲ破リテ「ハヴァナ」港ニ至ラシメ同港ニ於テ兩氏ノ來港ノ事由並ニ其目的地ハ一般ニ知レ渡リ居リテ北軍ノ軍艦ハ常ニ其擧動ヲ注意シ居タルニ兩氏ハ同港ヨリ英國郵船「トレント」號ニ乘客トシテ乘込ミ「ナッソー」港ニ赴カントシ「トレント」號ハ兩港間ノ航海ヲ爲シ居ル郵船ニテ又「ナッソー」港ヨリハ「トレント」號ニ聯結シタル英國行ノ郵船往復ヲ爲シ居タリシカ「トレント」號カ「ハヴァナ」港ヲ出發シテ「キューヴァ」島ノ沖合九浬ノ所ニ於テ米國ノ捕獲私船「サンジャシント」號ニ臨檢

セラレ船長ウイルクス」ハ乘客中右兩名ノ使節ヲ書記官ト共ニ伴廣トシテ捕ヘ之ヲ「ボストン」ニ護送セリ元來此二使節ヲ南軍カ歐洲ニ派遣ノ目的ハ歐洲ニ在リテ南軍政府ヲ其力ノ及フ限リ援助セシメ歐洲諸國ニ於テ其獨立ヲ承認スルニ至ラシメ同盟又ハ通商條約ヲ締結シ尚ホ英佛兩國ニ交渉シテ歐洲ヨリ米國ニ干渉ヲ求メ南軍ノ財政上及ヒ軍事上ノ需要ヲ助ケシムルニ在リテ兩氏ハ本國ヨリノ信任狀及ヒ訓令書ヲ持シ居リシモ事ノ發覺ヲ恐レテ其書類ハ他ノ乘客ニ託シタリ而シテ「トレント」號ノ船長及ヒ船員ハ兩氏ノ航海ノ目的ヲ知悉シタルコト疑ナシト雖モ「トレント」號船長ハ素ト南軍政府又ハ其代表者タル兩氏ノ公ノニ雇傭セラレタルニ非スシテ他ノ多數ノ船客ト共ニ普通ノ乘客トシテ之ヲ搭載シ兩氏カ南軍政府ノ信任狀及ヒ訓令書ヲ有スルト否トニ關係シタルニ非サリシカ故ニ同號ノ臨檢搜索セラルルニ當リ船長ハ之ニ反對シ强力ニ依ルノ外ハ之ヲ助ケサルコトヲ言明シ且同號ノ拿捕セラルルモ船長及ヒ船員ハ同號ノ回航ニ助力セサルコトヲ斷言セリ但此抗議ハ唯言語ニ止マリ腕力ヲ以テ臨檢搜索等ニ反對シタルニ非ス是ニ於テ捕獲私船長ウイルクス」ハ「トレント」號ヲ其儘放免シ「ノーフシ」及ヒ「スライデル」兩氏ハ二人ノ從者ト共ニ「ボストン」ニ送リタルモノトス本件ニ關シ英國ハ「ナンジャント」號ノ行爲ニ付キ米國政府ニ抗議ヲ爲シ之ニ反シテ米國ハ一般ニ「ウイルクス」船長ノ行爲ヲ賞贊シ國會ハ議決ヲ以テ同船長ニ謝辭ヲ呈スルニ至レリ是レ「トレント」號事件ニ關シテ英米兩國間ニ有名ナル紛議ヲ生シタル事實ノ大要ナリ以下之ニ付キ詳論セントス

英國外務卿「ロード、ラッセル」ハ千八百六十一年十一月三十日米國駐劄英國公使「ライオン」卿ニ訓令シ米國政府ニ抗議セシメテ無辜ノ英船ニ於ケル乘客四名ニ付キ其資格國籍等ヲ審査セス公海ニ於テ直チニ强制的ニ捕ヘタルハ不法ノ處置ナリトシ之ニ對シテ米國國務卿「セワード」ノ答辯ニハ「アナル」ノ言明ニ「戰爭ニ於テハ敵ノ戰爭行爲ヲ補助スルモノヲ除去スルノ權ハ交戰雙方ニ之ヲ有ス故ニ敵カ其救援ヲ求ムル爲メノ公使ノ派遣ヲ妨ケ得ヘシト爲シ又「ストーウエル」判事ノ判決例ニモ「敵ノ公使ヲ途中ニ於テ抑留シ得ヘシ」トセリ加之二人ノ公使ハ其職務又ハ行先等ニ徵スルニ戰時禁制品(コントラバンド)ナルカ故ニ米船ニ由リテ公海中ニ於テ「トレント」號ニ對シテ臨檢搜索ヲ爲ス權利アリテ其臨檢搜索ノ結果ニ因リテ

戰時禁制品ヲ船内ニ發見スルトキハ其船舶ヲ捕獲シテ捕獲審檢所ニ於テ審判シ物品及ヒ船舶ノ沒收ト否トヲ決定セサルヘカラス然ルニ此場合ハ船舶ヲ海上ニ於テ放免シ人ノミヲ捕ヘタルハ正當ナラサルノ觀アレトモ是レ唯便宜ニ出テタルニ外ナラス何トナレハ捕獲審檢所ノ審判ニ於テ正當ノ理由ニ依リ沒收セラルルト否トヲ決定スヘキモノハ唯船舶及ヒ載貨ニ限リ乘客ニ付テハ捕獲審檢所ハ何等審判ヲモ爲スモノニ非ス又「ヴァテル」「ストーウェル」ノ言明ニ依ルモ敵國ノ公使ハ之ヲ途中ニ於テ捕ヘ得ヘキカ故ニ公使及ヒ其書記官ヲ捕ヘタルハ交戰者ノ權利ニ屬シ此場合ニ於テ船舶ヲ拿捕シテ捕獲審檢所ニ引渡サナリシハ政略ニ基キ審判ノ手續ヲ省略シタルモノニシテ國際公法上ノ違背ニ非ストセリ

此米國ノ答辯ニ對スル英國ノ反駁ニ於テ第一兩氏派遣ノ性質ハ戰時禁制品ニ非ス第二其性質上之ヲ戰時禁制品ト假定スルモ戰時禁制品ハ敵地ニ行クヲ以テ要件トス然ルニ「トレント」號ノ航海ハ中立國ヨリ中立國ニ行クモノニシテ決シテ戰時禁制品ト爲スコト能ハスト」シ第一「メーソン」及ヒ「スライデル」ハ外交官ノ特權ヲ有シ外交官ノ保護ハ正式ニ承認アリタル主權ニ依リ接受又ハ派遣セラレタル人ノミニ限ラス歐洲諸國ハ南軍ヲ交戰者ト承認シ其諸國人民ハ南軍ニ於ケル事實上ノ政府ノ下ニ身體及ヒ財產ヲ保護セラレ交戰團體ノ承認ハ之ト共ニ承認國ト同團體トノ間ニ國際關係ヲ生シ其政府ノ使節又ハ他ノ外交上ノ官吏ト交涉ヲ要スヘキ不完全ナル外交關係ヲ有スルカ故ニ斯ル性質ノ外交官ヲ英國及ヒ佛國ニ運搬スルコト又其外交官ノ信任狀及ヒ訓令書ヲ携帶スル場合ニモ之ヲ運搬スルハ中立義務ノ違反ニ非ス此故ニ斯ル外交官ヲ交戰國ハ自國內ニ於テ捕フルノ權アルモ英國船舶內ニ在ル公使ハ英國ノ主權ノ下ニ在ルモノ即チ中立國ノ保護ノ下ニ在ルモノナルニ依リ決シテ捕フルコトヲ許サス若シ之ヲ捕フル場合ハ英國ノ主權ヲ侵害シタルモノナリトシ第二ノ點ハ自明ノ理ニシテ「ハヴァナ」港及ヒ「ナッソー」港間ノ航海ハ固ヨリ中立國ノ一港ヨリ他ノ中立港ニ至ルノ航海ニシテ「ナッソー」港ヨリ英國ニ向フノ航海モ亦中立國港間ノ航海ナルカ故ニ此場合ニ於テハ戰時禁制品ノ要件トシテ其物品カ敵國又ハ敵國陸海軍ニ入ル場合ナルヘキコトヲ具備セサルヲ以テナリ

前述シタル所ハ「トレント」號事件ニ於ケル英米兩國間ノ爭議ノ要領ナリシカ本件ニ付キ米國政府ニ於テ英國政府ヨリ有力ナル抗議アルニ拘ハラス國内ニ於テハ「ウイルクス」艦長ノ行爲ヲ賞揚シ國會ニ於テモ之ニ感謝ヲ議決シ一般ノ激昂ヲ生シタルカ故ニ國務卿ハ非常ニ困難ナル地位ニ立チタリシカ遂ニ米國カ南軍使節ヲ捕ヘタルハ正當ノ所爲ナレトモ「トレント」號ヲ自國ノ捕獲審檢所ニ引致シテ審判スヘキモノナルニ拘ハラズ其手續ヲ經サリシハ國際公法上ノ慣例法ニ反スルノ理由ヲ以テ「ボストン」ニ於テ英國軍艦サンス」號ニ「メーソン」及ヒ「スライデル」兩氏ト其書記官ノ四人ヲ引渡シテ本件ヲ落著シタリ以上ノ事實ニ基キ「トレント」號事件ヲ國際公法上ヨリ論究センニ英米兩國ノ爭議ニ於テハ之ヲ戰時禁制品ノ問題トシテ論爭シタルコトナルカ諸君ハ「トレント」號事件ヲ戰時禁制品ノ問題ナリト思考スルヤ否ヤ但米國ハ交戰國間ニ非ナレハ爲スコト能ハサル封鎖ヲ南軍ノ諸港ニ施シタルヲ以テ南軍ヲ交戰團體ト認メ英佛兩國モ南軍ニ付キ交戰者ノ承認ヲ爲シタルカ故ニ英佛兩國ハ局外中立ニ在ルコトハ明白ナルカ故ニ其點ニ付テハ論スルノ必要ナシ

生徒　戰時禁制品ノ問題ニ非ス

講師　「ウイルクス」艦長カ「トレント」號ニ對シ航海ニ於テ臨檢搜索ヲ爲スコトヲ得ルヤ

生徒　爲スコトヲ得

講師　若シ本件ヲ戰時禁制人又ハ戰時禁制書ノ問題ト爲ルヘキモノト假定セハ「ウイルクス」船長カ「トレント」號ヨリ四人ヲ捕ヘタルハ如何

生徒　正當ナリ而シテ艦船ヲモ沒收スルコトヲ得

講師　載貨ハ如何沒收シ得ルヤ否ヤ

生徒中答フル者ナシ

講師　戰時禁制人、戰時禁制書ナリト假定セハ船舶ハ沒收シ普通ノ乘客載貨ニ付テハ之ヲ捕ヘス又沒收スルコトヲ得ス然レトモ船舶ト載貨ト同一所有者ニ屬スルトキハ共ニ沒收スルモノトス

講師　戰時禁制人、戰時禁制書トセルハ今一ノ假定ニ屬ス本問「トレント」號ニ於ケル事實ハ戰時禁制人、戰時禁制書ナルヤ否ヤ

生徒　共ニ然ラス戰時禁制人ニ非ス又戰時禁制書ニモ非ス

講師　然リ戰時禁制人又ハ戰時禁制書ト稱スルハ人又ハ其書ニ付テ謂フモノニ非ス例ヘハ戰爭ノ動作ニ影響ヲ有スル人或ハ書ヲ單ニ搭載シアルモ之ヲ稱シテ戰時禁制人又ハ戰時禁制書ト謂フコト能ハス唯之ヲ搭載スル行爲ハ中立事業トシテ正當ナルヤ否ヤニ依リテ之ヲ區別スヘク換言セハ戰時禁制人又ハ戰時禁制書トハ中立國ノ私有船舶カ交戰國一方ノ戰鬪行爲ヲ補助スルノ行爲即チ中立違反ノ事業ナルコトニ存スルモノトス然ルニ「トレント」號ノ場合ハ南軍ノ依賴ヲ受ケ又ハ其雇傭ニ因リテ其外交官ヲ運搬シタルニ非ス又船舶カ自ラ南軍ノ戰鬪ヲ援助スルカ爲メ特ニ其外交官四名ヲ運搬シタル行爲ニ非ス「メーソン」及ヒ「スライデル」ハ單ニ多數ノ船客ト共ニ單純ナル乘客トシテ來リ其使命ノ書類ヲ携帶シタルコトナレトモ船長ハ其書ノ送達ニ關係セス兩氏カ之ヲ他ノ船客ニ託シタルノ事實アレトモ船長ハ之ヲ知ラス又干與シタルコトナシ此故ニ兩氏ノ運搬ハ性質上戰時禁制人ニ非ス其携帶シタル書類カ船中ニ在リタルモ之カ爲メ「トレント」號ヲ戰時禁制書ノ違反アリト云フコト能ハス要スルニ「トレント」號事件ハ學者ノ意見カ千差萬別ナリト雖モ戰時禁制品ニ非サルコトハ疑ナク又之ヲ戰時禁制人又ハ戰時禁制書即チ戰時禁制ノ事業ト謂フコト能ハスシテ「ウイルクス」船長カ公海ニ於テ之ニ臨檢搜索シタルハ固ヨリ正當ナリト雖モ四名ヲ捕ヘ去リタルハ不法ニ屬シ若シ之ヲ戰時禁制人又ハ戰時禁制品トシテ其船舶ヲ處罰スヘキ疑アルトキハ同船ヲ捕獲審檢所ニ引致シ其審判ニ依ルヘク縱令捕獲審檢所ニ引致スルモ「トレント」號ハ前述ノ理由ニ依リ處罰セラルヘキニ非ス此故ニ「ウイルクス」船長ノ行爲ハ英國ノ權利ヲ侵害シタル不法行爲ト謂フヘキモノトス又英國政府ノ議論ニ於テハ戰時禁制品ト戰時禁制人及ヒ戰時禁制書トノ區別ヲ爲サスシテ本件ニ對シ中立國間ノ航海ニシテ其船舶ノ到達地カ敵國ニ非サリシカ故ニ戰時禁制品ニ非スト論シタルハ固ヨリ戰時禁制品ノ論據ニ依リ本件ヲ觀ルトキハ正當ナリト雖モ戰時禁制ノ事業ナルニ於テハ其船舶ノ到達地カ敵國ナルト中立國ナルトニ關係ナキカ故ニ本件ヲ英米兩國カ戰時禁制品トシテ論爭シタルハ共ニ誤解ナルコトハ「ローレンス」ノ論シタル如ク寧ロ之

ヲ戰時禁制人又ハ戰時禁制書ノ見地ニ依リテ論スヘキモノニ屬シ而シテ事實ハ本件ヲ戰時禁制人又ハ戰時禁制書ト爲スコト能ハサルモノトス其被捕品生徒船舶ハ捕獲審檢所ニ於テ審判スヘキモノナレトモ人ニ付テ審判スルノ權限ナシ然ラハ中立國船舶内ニ在ル戰時禁制人ハ之ヲ捕フルコト能ハサル結果ト爲ルニ非スヤ如何[illegible]

講師ハ捕獲審檢所ニ於テ判決ノ權限ニ付テハ質問ノ如シ故ニ戰時禁制人ヲ逮捕アル船舶ヲ捕獲スルニ當リ其人ヲ俘虜ト爲シ得ヘキハ交戰者カ當然有スヘキ權利ニ屬シ其政略上之ヲ放免スルト俘虜ト爲スハ其任意ニ在リ然レトモ其船舶カ中立國船舶ナルノ故ヲ以テ船内ニ於ケル其事業ノ目的ト爲リ居ル人ヲ抑留スルノ權利ナシト云フコト能ハス何トナレハ戰時禁制事業ニ從事シタル船舶ハ敵性ヲ有スルモノトシテ之ヲ浸收スヘキモノナルニ依リ其事業ニ從事シタル中立國船舶又ハ同船舶ノ所屬國カ其船舶ニ付キ局外中立ノ特權ヲ主張スルコト能ハス加之其船舶ノ浸收ニ付テハ必ス之ヲ自國ノ捕獲審檢所ニ引致シテ審判スヘキモノナルカ故ニ其場合ニ於テ船舶ハ自國領

海内ニ在ルヲ以テ其船舶内ノ人ヲ捕ヘ得ヘキヲ以テナリ

此故ニ「トレント」號事件ニ於テハ未タ戰時禁制人又ハ戰時禁制書ノ運搬ナルヤ否ヤヲ國際公法上正當ノ手續ニ依リ決定セスシテ中立國船舶中ヨリ四名ヲ捕獲シタルヲ不法トスヘク米國ノ論點中ニ「ストーウエル」判事カ敵國ノ公使ヲ其途中ニ於テ俘虜ト爲シ得ヘシトノ言明ヲ引證シタレトモ同判事ハ中立國船舶内ニ於ケル交戰國ノ公使ヲ戰時禁制人ト云ヒタルニ非ス單ニ公使ノ有スヘキ不可侵權ノ範圍ヲ示スカ爲メ「交戰者ハ交戰關係ノ性質カ存在スル如向ナル場所ニ於テモ敵國ノ公使ニ對シテ戰爭ノ權利ヲ及ホシ得ヘク其途中ニ於テ公使又ハ敵人ヲ止メ得ヘシト雖モ公使ニシテ任所ニ到達シ其職務ヲ執リ本國代表ノ性格ヲ承認セラレタルトキハ同人ハ格段ナル特權ヲ有スヘキ中立的人物ノ一種ト爲ル」(The "Caroline" 6. C. Rob. 468)ト言明シタル所以ニシテ中立國船舶カ戰時禁制ノ事業ニ從事セサル以上ハ其船舶内ノ敵人ヲ公海ニ於テ捕獲スルハ中立國ノ主權ノ侵害ニ外ナラス

虛僞ノ原因ハ害ヲ爲サス

False causa non nocet.

憲法答案批評

法學士　清岡東洲　水谷孝澄

法律ヲ以テ帝國議會ヲ解散シ得ル場合ヲ規定シ得ルヤ大謬甚タシ

天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フヤ憲法第四條ノ明言スル處ニシテ立法權ヲ行フモノモ亦天皇タルコト第五條ノ規定スル處ナルヲ以テ本問ノ如キ法律ヲ以テ帝國議會ヲ解散シ得ル場合ヲ規定スルハ憲法上些ノ障害ナキ適法ノコトナルニ似タリ然リト雖之レ大ニ然ラス予輩ハ本問ニ對シ消極的斷案ヲ附スルノ正當ナルヲ信ス左ニ順次闡陳セン

(一)夫レ主權執行ノ形式ヲシテ夫レ夫レ機關ニ依ラシメ互ニ相侵犯スルコトナカラシムルハ之レ立憲制ノ立憲制タル特徴ニシテ復我憲法ノ採用スル主

義ナルコト似說スル迄モナシ是ニ於テカ第二章ニ於ケル所謂立法事項ナル

(一)モノハ決シテ大權又ハ命令ヲ以テ左右スルコトヲ許サス必ス法律ヲ以テ規定スヘキコトヲ保障シ又所謂第一章中ノ大權事項(憲法上ノ)ナルモノハ必ス天皇親裁シテ之ヲ行ヒ決シテ法律ヲ以テ規定スルヲ許サス而シテ特ニ法律ヲ以テスヘキ事項ハ第十四條戒嚴ノ效力等ニ關スル規定ノ如ク法律ヲ以テ定ムヘキ所以テ明規セリ左レハ大權事項ニ該當スルモノハ必ス大權ヲ以テ規定スヘキコト憲法ノ主義トナセルコト敢テ多辯ヲ俟タサルナリ而シテ我憲法上或ハ法律ヲ以テ規定スルモ或ハ又命令ヲ以テスルモ若クハ大權ヲ以テスルモ不可ナルコトナキ即立法律事項ニモアラス憲法上ノ大權事項ニモアラサル場合ヲ認メリ學者如此場合ノ事項ヲ稱シテ法令共同事項ナリトセリ我憲法上第一大權事項第二立法事項第三法令共同事項アルコトハ本問ヲ解決スルニ就テ最モ注意スヘキ點ナリトス

(二)而シテ法律ハ法律ヲ以テスルニアラサレハ變更廢止スルヲ得ス命令ヲ以テ之レヲ左右シ得サルハ又我憲法上一點ノ疑ヲ容ルヘキノ餘地ナシ緊急勅

令ハ例外之レ我憲法上ニ於ケル法律ノ形式的效力ノ一ナルコト瞭瞭ヲ俟タサル處ニシテ復實ニ本問ノ解決上有力ナル根據ヲナスモノ也

夫レ帝國議會ヲ解散シ得ル場合ヲ規定スル法律ハ予輩カ前提セシ中ノ立法事項ナルカ曰ク然ラス第二章ハ之ニ向テ否定スヘキヲ示スノミ果タシテ然ラハ之レ所謂法令共同事項ノ一場合ナルヘキカ曰ク予輩ハ其然ラサル所以ノ大ナル根據ヲ有スルナリ我憲法第七條ハ天皇カ帝國議會ヲ解散スヘキヲ明定セリ即解散權ハ天皇大權事項ノ一ナルコト疑ヲ容レサルモノナリトセハ之レヲ法律ニテ規定スルハ大權事項ヲ侵害スルモノニシテ我憲法ノ主義竝ニ明文ニ違反スルモノナリ即違憲ナルコトヲ斷スルニ躊躇セス

予輩カ前述セシ如ク法律ヲ以テスルニアラサレハ法律ヲ變更スルヲ得サルハ憲法ノ原則トスル處也若シ本問ノ場合ニ其法律ヲ以テ憲法上有效ナルモノト認メンカ帝國議會ノ解散權ハ炳乎トシテ第七條ニ依リ天皇ノ大權內ニアルコトヲ示セルニ關セス其法律アル以上ハ天皇ハ大權又ハ命令ヲ以テ之ヲ左右スルコト能ハサルモノナレハ必ス議會ノ協贊ヲ經相當ノ立法手續ヲ盡シ其法律

ヲ以テ變更又ハ改廢スルニアラサレハ解散權ヲ行使スルヿト能ハサルヿト相ナルヘシ之レ豈我憲法上認ムヘキノコトナランヤ解散權ハ實ニ第七條ノ明文上大權内ニ存スルコト明ニシテ抑モ本問ノ如キ疑ヲ生スルハ外國ニ於ケル事例カ屢〻法律萬能ノ事實ヲ示スヲ以テ之レヲ我憲法上ニ比附援引スルヨリ生ス ル誤解ナリトス我憲法ニ於テ法律ハ決シテ萬能ニナラス其大權事項ヲ侵反シテ規定スルヲ得サルハ尚大權事項カ立法事項ヲ侵反シ得サルト同シク兩兩相對シ各〻其畛域ヲ守ルヘキモノナルコトヲ知ラサルニ基ク誤認ノ見也左レハ予輩ハ上述ノ理由ニヨリ解散權ハ大權事項ナルコト及法律ハ法律ヲ以テスルニアラサレハ改廢變更スルヲ得サルモノナレハ若シ本問ニ肯定ヲ與ヘハ遂ニ第七條ニ矛盾スルニ至ルヘキヲ以テ本問ハ否定スヘキモノト斷定ス

尚解散ノ如キハ臨機應變活機ニ處スヘキモノナレハ之レヲ法律ノ如キ固定的性質ヲ有スルモノニテ規定スルノ政治上而白カラサル所以等中一切茲ニ叙說セス

附言

帝國議會ノ解散トハ衆議院ノ解散ナルカ又ハ衆議院解散セラルレハ貴族院ハ停會トナルヘシ之レニ付キ多少ノ議論アルモ今略ス

講師批評　此問題ニ對シテハ此答案ヲ比較的優等ト併シ他ノ答案ト均シク停會ノ日數ヲ議院法ニテ定メタルニ論及セサリシヲ惜ム

條約中國庫ノ負擔トナルヘキ事項ヲ含ムトキ其條約ハ成リ難シ

立條件又ハ效力發生ノ條件トシテ議會ノ協贊ヲ經ヘキモノナルヤ

斷定セス余ハ議會ノ協贊ヲ經ヘキモノナリトス學說左相異ナリ

理由

條約ノ性質ニ就テハ學者ノ見解未タ其揆ヲ一ニセサルヲ以テ國際法上ニハ國際法上ノ效力ヲ生セシムル國家間ノ意思ノ合致ナリトノ說ヲ贊ス從テ條約ハ國内法上ノ效力ヲ生セシムルモノニ非ス又國家ト臣民間ノ關係ニ非

スシテ全ク野蛮ノ地位ニアル國家間ノ意思表合或ハ所謂文明國際間ノ慣例ニ基ク所ロノ順序手續ヲ履ムヲ要セサルモノタルヤ明カ然レトモ是レ唯一般ノ原則ニシテ彼ノ立法事項ノ如キ又本問題ノ如キ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘキ事項ニ對シ元首カ隨意ニ條約ヲ締結シタルトキハ其條約ハ有效ナルヤ否ヤニツキテハ學者間大ニ爭ノ存スル所ロ尚リ今有效論者ノ說ヲ略記スレハ固ヨリ條約ト雖當事國家ノ憲法ノ認ムル締結權ヲ有スルモノノ締結スルニ非スンハ有效ト云フヲ得サルト同時ニ條約締結ノ全權委員カ權限外ノ事項ヲ締結シタル場合ノ如キハ其效力完全ナリト云フヲ得サルハ論ヲ俟タスト雖苟モ否ラサル場合ハ有效ナリト云ハサルヘカラス而シテ熟〻我憲法ヲ問ミスルニ其第十三條ニ曰ク天皇ハ諸般ノ條約ヲ締結ストアリテ他ニ何等ノ制限アラサレハ天皇ハ如何ナル事項ヲモ條約ノ目的トナスコトヲ得ヘシ況ンヤ條約ノ性質ハ前顯ノ如クナレハ國家ト臣民トノ關係ノ如キ毫モ顧慮スヘキモノニ非ルニ於テオヤト而シテ之ニ反對論者ハ曰ク我カ憲法第十三條ニ天皇ハ諸般ノ條約ヲ締結ストアルモ是ヲ以テ條約締結權ノ範圍ヲ定メタルモノト

認ムルハ大ニ非ナリ該條ハ唯條約締結權ノ存在ヲ規定シタルモノニ過キスシテ憲法ノ他ノ條規ニヨリ元首カ獨斷的ニ爲スヘカラサル事項迄モ獨斷的ニ條約ノ締結ヲ許容シタルモノニ非ス即チ立法事項ノ如キ第六十二條ノ如キ何レカ原則ニシテ何レカ例外タルヤハ未タ俄カニ斷スヘカラス故ニ第十三條ノ規定ハ單ニ第六十二條ノ如キ他ノ機關ノ同意ヲ要スヘキモノハ其同意ヲ得テ締結スヘキコトヲ示シタルモノト解セサルヘカラス若シ夫レ否ラストセンカ第十三條ト第六十二條其他ノ規定トハ相矛盾シ國家ハ組織ノ意思ヲ有スルモノト云ハサルヘカラサルニ至ラン故ニ本問ノ場合ノ如キ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘキ事ヲ要件トスル事項ハ其要件ヲ履マサレハ元首ハ或意味ニ於テ所謂權限外ノ事項ヲ爲シタルモノナレハ其條約ハ完全ニ成立スルヲ得スト

余ハ此ノ後說ヲ發スルモノナリ蓋シ第一論者モ主張スルカ如ク各國家カ條約ヲ締結スルニハ各國ノ憲法(憲法ノナキ國ハ例外)ヲ調査シ何人ニ締結權カ存在スルヤ且其締結權ノ範圍等ヲモ知ラスヘカラサルモノナレハ若シ其締結事項カ其國ノ憲法ニ抵觸シタル場合ニハ其條ノ憲法ヲ無効タラシムル以テ相手國ニ對抗スル

羅馬人ハ所有權ハ永久ナリトノ觀念ヨリ推シテ之ヲ極端ニ及ホシ所有權讓與ノ際ニ當リ一定ノ時期後讓與者ハ當然ニ物件ノ所有ヲ恢復スルノ條件ヲ附セル讓與ヲ以テ所有權ノ性質ニ反スルモノトシ此ノ如キ讓與又無效トシタリ

第四章　地役 (Servitutes)

茲ニ所謂地役トハ他人ノ所有スル土地ニ付キ享有スル權利ニシテ羅馬法ハ屬人ニ之ヲ認メ其或土地ノ利益ヲ目的トスルカ又ハ或人ノ利益ヲ目的トスルカニ從ヒ之ヲ別チテ Servitutes praediorum 及ヒ Servitutes personarum ノ二種トセリ

此兩種ノ地役ハ判然タル差別アルニ拘ハラズ又一般ニ同一ノ性質ヲ有ス (1) 羅馬法ノ本文ハ之ヲ指スニ Jura ナル文字ヲ以テシ無體物ト看做ス (2) 地役ハ Jus in re 即チ物權ニシテ債權ニ異ナリ直接ニ物上ニ負擔シ何人ヲモ拘束セス (3) 地役ハ Jus in re aliena 即チ他人ノ有スル所有權ノ分裂ニシテ地役ノ享有者ト地役ニ服スル土地ノ所有者トノ間ニ一權利ヲ配分シタルモノナリ

第一節　地役權(Servitutes praediorum)

土地地役或ハ單ニ地役ニ於テハ必ス二箇ノ土地ノ存在ヲ想像セシメ甲ヲ眞實主ト爲シ乙ヲ以テ從ト爲ス主タル土地ハ地役ニ據リテ從タル土地ヲ取ル所ノ利益ニ因リ其價値ヲ增加シ從タル土地ハ之ニ伴ヒテ損害ヲ受クルモ兩土地接隣ノ關係ヨリ已ムヘカラサルノ結果ナリトス一箇ノ同一ノ物ヲ目的トスル地役ハ永久理由(Causa perpetua)ヲ要シ兩土地ノ關係即チ主地カ從他ヨリ得タル利益ハ永久繼續スヘキ性質ナラサルヘカラス故ニ汲水地役ニ在リテハ泉水ノ湧出スル地上ニ於テシ之ヲ貯水池ヲ有スル地上ニ設定スルヲ得ス然レトモ此永久理由トハ大體ニ於テ之ヲ解釋シ必スシモ地役ノ因リテ生スル物件ノ狀態カ未來永劫ニ無盡ナラサルヘカラスト謂フニ非ス唯其確定スヘカラサル年月間延長スヘキヲ以テ足レリトス例ヘハ砂石採取ノ地役ニ於テ其一日盡タルニ至ルヤ明カナルモ果シテ其何ノ日ニ終ルヤ知ルヘカラサルカ如シ[illegible]地役ニ於テハ從タル土地ヨリ收ムル所ノ利益ハ必ス主タル土地ノ爲メナラサルヘカラス故ニ此利益ニシテ單ニ人ヲ利シ土地ハ何モ得ル所ナキカ又ハ利スヘキ土地ノ存在セサルトキハ地役ハ成立スルコト能ハス又負擔ニシテ單ニ人ニ屬シ土地ニ屬セサルトキモ亦然リトス[illegible]從タル土地カ得ル所ノ利益ハ必ス主タル土地ノ爲メニ必要ナラサルヘカラス是ヲ以テ兩土地ノ地形上地役ノ實行ヲ妨クル所ノ障害ナキヲ要ス本來地役ハ兩土地ノ隣接ヨリ生スル從隷ニ外ナラスト雖モ必スシモ兩土地ハ互ニ相害接スルヲ要セス

羅馬人ハ地役ヲ分チテ二種ト爲シタリ甲ヲ田舍地役(Servitutes prediorum rusticorum)乙ヲ市街地役(Servitutes prediorum urbanorum)ト爲シ甲ハ Res mancipi タリ乙ハ Res nec-mancipi タリ地役ノ田舍タルカ又ハ市街タルカハ何ノ徵候ヲ以テ之ヲ別ツカノ問題ニ對シテハ議論數岐ニ分レタルモ多數學者ノ採ル所ニ依レハ主タル土地ノ田舍或ハ市街ナルニ依リ地役ノ性質ヲ定メタルモノナリトス而シテ羅馬法ノ所謂田舍又ハ市街ナルモノハ特別ノ意味ニシテ田舍土地トハ建築物ナキ土地ヲ指シ市街土地トハ家屋ヲ有スル土地ヲ指スモノナリ故ニ市街地役又ハ

田舍地役ハ建築物ノ存シ或ハ存セサル土地ノ地役ナリトス市街地役又ハ田舍地役ハ通路(Viae)ノ權水路權(Aquae ductus)汲水權(Aquae haustus)牧畜權(Jus pascendi)家畜ヲ飲フノ權(Necessitas ad aquam appulsum)石灰及ヒ砂石ノ採掘權(Jus calcis coquendae, arenae fodiendae)等ナリトス市街地役ハ眺望ノ權(Jus prospicendi)欄干其他ノモノヲ隣地上ニ凸出セシムル權(Jus projiciendi)隣接セル家屋又ハ壁ニ柱梁ヲ支ヘシムル權(Jus tigni immittendi)擔上ヨリ落ツル雨水ヲ隣地ニ落チシムルノ權(Jus stillicidii vel fluminis recipiendi)隣地ニ建築セシメス又ハ既ニ存スル建築物ヲ高メナラシムルノ權(Jus altius non tollendi)等ナリ

地役設立ニ於テハ本來地役ハ有所權ノ分支ナルヲ以テ所有權移轉ノ方法ニ依リ之ヲ設立スルヲ得ルモ一切ノ方法皆地役ニ適用スヘキニ非ス又時代ニ從ヒテ變遷アリタリ

(一)市民法ニ從ヘハ地役ハ讓與(Translatio)ニ因リ又ハ所有權ノ減少(Deductio)ニ因リテ之ヲ設定スルコトヲ得タリ地役ノ讓與ハ一ノ土地所有者カ其土地ヨリ享クヘキ或利益ヲ分割シテ之ヲ他人ニ屬スル土地ニ結合スルトキニ生スルモノニシテ地役ハ讓與サレタル物件ノ如ク得取者ノ資産ヲ增スモノナリ然レトモ地役ハ無體物ニシテ市民法ハ其占有ヲ認メナルヲ以テ先取引渡時效ニ因リテ之ヲ得取スルヲ許サス「マンシパシオ」ハ唯リ Res mancipatio タル田舍地役ニ應用セラレ其他 In jure cessio, Adjudicatio 等ハ田舍,市街ノ別ナク地役ヲ得ル方法トシテ用ヒラル

Deductio servitutes 即チ所有權ヨリ地役權ヲ減少シタルトキニ於テハ地役ハ讓與ニ因ルニ非スシテ土地ノ所有主ハ地役ノミヲ減除シ其所有權ヲ讓與シタルトキニ起ルモノニシテ地役ノ抑留ナリ故ニ「マンシパシオ」ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

(二)プレトール法律ハ法官ノ地役ヲ以テ占有ノ目的物タルヲ容シ準占有ヲ創立シテヨリ主タル土地ノ所有主ハ從タル土地ノ地役ヲ占有スルコトヲ得ルニ至レリ又地役ノ占有者カ眞ノ所有主ニ非サル者ヨリ之ヲ得タルトキ一定年限ノ後ニハ長期時效ニ因リ之ヲ得取スルコトヲ得又引渡ニ於テモ地役ヲ以テ準引渡トシ之ヲ設立スルコトヲ許セリ

(Mancipatio)ジュスチニアンノ時ニ至リテハ Mancipacio 及ヒ In jure cessio ハ消失シ地役ハ其他ノ方法ニ依リ設立セラルルヲ得タリ

地役ノ消失

地役ハ其實行ヲ爲スヘカラサルノ事實又ハ當事者ノ意思ニ因リ消滅ス地役ハ實行スヘカラサル事實トハ主又ハ從タル土地ノ一カ消滅スルトキニ來リ又兩土地ノ合併即チ同一人ノ所有ニ歸スルトキモ亦然リ

當事者ノ意思ニ因ル場合ハ主タル土地ノ所有者カ明白ニ其權利ヲ拋棄スルヨリ來ル市民法ニ於テ其結果ヲ生セシムルニハ In jure cesse ニ依リ其拋棄ヲ爲スコトヲ要シタリ又一定ノ年限間地役ヲ利用セサルトキハ主タル土地所有主カ地役ヲ拋棄シタルモノト爲スモ此推測ハ十分永キ時日ノ間地役ヲ利用セサルニ因リ敎科時代ニハ之ヲ二年トシ「ジュスチニアン」時代ニハ地役所有主ノ在不在ニ依リテ十年又ハ二十年ト爲シタリ然レトモ市街地役ニ於テハ唯リ其不用ノミナラス尙ホ其實行ニ反スヘキ障礙ヲ要ス例ヘハ眺望地役ニ於テ隣地上ニ之ヲ妨クヘキ建物ヲ建設シタルカ如キ是ナリ而シテ此障礙物ハ從タル土地ノ所有或ハ其他ノ第三者カ之ヲ爲シタルヲ問ハサルモノトス市街又ハ田舍地役ニ從ヒ此差異アルハ市街地役ハ繼續的ニシテ田舍地役ハ間斷的ナルニ由ル換言スレハ市街地役ハ常久使用サレツツアルモノト思考サレ田舍地役ハ其使役ノ際ノミ利用サレ其他ノ時間ニ於テハ中斷スルヲ以テナリ

第二節　對人的地役 (Servitutes personarum)(用益權使用權住居權)

此種ノ地役ハ前節ニ說明シタル地役ニ等シク物權ナルモ殊ニ之ニ Servitutes personarum ナル名稱ヲ與フルハ其一定シタル人ノ爲メニ設立セラレタルヲ以テナリ所謂地役ニ於テハ其數多ノ種類存在スルモ對人的地役ニ於テハ僅ニ用益權(Usus fructus)使用權(Usus)住居權(Habitatio)奴隸又ハ家畜ノ使用權(Operae servorum animalis)ナル四種ニ過キス就中用益權ハ所有權ノ元素タル收實使用ノ兩權ヲ兼キタルモノニシテ住居權奴隸又ハ家畜使役權ノ一部ニ過キサルヲ以テ予ハ單ニ用收權ニ就キテ說カントス

用益權ハ他人ニ屬シ反復シタル使用ニ堪フヘキ物ヲ使用シ之ヨリ生スル果實

ヲ收メ己ノ所有ト爲スノ權利ナリ是レ明カニ Usus fructus ナル字ノ指示スル所ナリ是ヲ以テ觀レハ用益權ナルモノハ所有權中ノ最モ利得ヲ與フルノ元素即チ使用權(Jus utendi)及ヒ收實權(Jus fruendi)ヲ悉クヲ他ニ分割スルモノニシテ餘ス所ハ彼ノ處分權(Jus abutendi)ニ過キス故ニ羅馬人ハ此所有權ヲ呼フニ Nudum dominium, Nuda proprietas ナル名ヲ以テシ所有權ノ利益ヲ失ヒタルヲ示シタリ用益權主ハ使用權ニ基キ物ノ利益ヲ增加スル附屬ノ權利例ヘハ土地ニ於テハ地役ト共ニ物ヲ使用シ又收實權ニ基キ物ヨリ生スル果實ヲ收取シテ己ノ所有ト爲スノ權アリ果實トハ物ノ特定シタル質或ハ合意上ノ結果ヨリ生スル定期的ノ生産物ヲ指スモノニシテ定期ニ收穫スルコトヲ得ス或ハ偶然發生シタルモノハ之ヲ以テ果實ト爲サス隨テ用益權主ニ屬セスシテ所有主ニ屬セシム

本來用益權ハ動産不動産ヲ別タス有體物上ニ設定セラルルコトヲ得ルモ其性質トシテ物體ヲ保存シ之ヨリ生スル利益ヲ享有スルニ止マルヲ以テ消費ニ因リテ始メテ利益ヲ得ヘキ物件例ヘハ金錢ニ於テハ用益權ノ目的ト爲ルヲ許サナリシカ「アウグスト」帝ノ時ニ及ヒテ準用益權主ハ此等物件ノ所有主ト爲リ之ヲ所有スルヲ得テ唯其終結ノ日同一種ノ物件ヲ所有主ニ返還スルヲ以テ足レリト決シタリ

用益權ハ元來一定シタル人ノ爲メニ設定セルモノナルヲ以テ其性質トシテ讓與スヘカラサルモノナリ然レトモ用益權主ハ有償或ハ無償ヲ以テ其權利ノ實行ヲ讓與スルヲ得之ヲ讓受ケタル者ハ用益權ヨリ生スル一切ノ利益ヲ收ムルコトヲ得ルモ用益權ニ於テハ其稱題者ノ身上ニ結合サルルヲ以テ用益權主ノ死スルニ迨ヒ用益權モ亦終局ヲ告クルモノナリ

用益權ノ目的ハ物件ノ享有即チ之ヨリ生スル利益ヲ收ムルニ在ルヲ以テ用益權主ハ物件ヲ頒收スヘカラス又其用方ヲ變スヘカラス收入ヲ以テ支拂スヘキ租賦及ヒ修繕ノ費用ハ其負擔ニ屬シ用益權終了ノ際物ヲ返却スルモノトス當初ニ於テハ用益權主ノ義務ハ此ノ如ク列擧スルモノニ止マリ虛有權主ノ利害ハ關知スル所ニ非ス自ラ物件ヲ頒收セサルトキハ己ノ怠惰ニ因リテ生スル損害ニ任セサリシカ後世ニ及ヒ虛有權主ヲ保護スルノ目的ヲ以テ「プレトール」ハ更ニ用益權主カ物件ノ享有ニ入ルニ先チ或手續ノ履行ヲ爲サナルヘカラサルヨ

トヲ命シタリ此手續ハ用益權主カ保證人ヲ立テテ善良ナル家父ノ享有(Usurum boni viri arbitratu)用益權終了ノ時物件ノ返還(restituram quod extabit)ヲ擔保セシムルニ在リ善良ナル家父ノ享有ナル約束ニ因リ用益權主ハ爾後用益權主ヲシテ其怠惰ヨリ一切ノ結果ニ關シ責任ヲ負フヲ以テ其享有セル物件ニシテ時效ニ罹ル虞アルトキハ之ヲ中斷シ又ハ地役ニシテ不使用ニ因リ消滅スヘキモノアルトキハ之ヲ實行シ又羊群ニ於テ羊ノ死亡スルトキハ之ヲ補充セサルヘカラス物件返還ノ約束ハ無用ナルカ如キモ虛有權主ハ用益權終了訴訟ノ生スルトキニ當リテ其所有權ヲ證明スルノ勞ナク直チニ物件ヲ請求スルヲ得隨テ訴訟ヲ容易ナラシムルノ便アリ

用益權ハ終身的ノ權利ナルヲ以テ用益權主ノ死亡ニ因リテ消滅ス其物件ノ消滅棄權及ヒ一定時間ノ不使用ニ因リ然リ不使用ノ年月ハ當初動產ニ於テハ一年不動產ニ於テハ二年ナリシカ「ジュスチニアン」ノ時ニハ甲ニハ三年乙ニハ十年又ハ二十年ト爲シタリ

使用權ハ物件ヲ使用スルノミニシテ果實ニ於テ毫モ之ヲ利スルコト能ハサリシカ後世實際ニ於テ使用權主ニ利益ヲ得セシメンカ爲メ果實ノ一部ヲ收ムルコトヲ許シタリ例ヘハ牛羊等ニ於テハ其乳ヲ取リ田野ニ於テハ野菜果實花等ヲ採取スルヲ得然レトモ其收ムル所ハ使用權主ノ一身或ハ一家ノ用ニ充ツルヲ度トシ之ニ超過スルヲ得ス

使用權其他住居權,奴隸又ハ家畜ノ使用權ニ於ケル規則ハ用益權ニ準據セリ

第五章　「プレトール」ニ依リ制定セラレタル物權

第一節　市民法ノ所有權ニ準スヘキ物權

市民法上ノ所有權Dominiumハ其適用範圍狹隘ニシテ實際ニ於テ弊害ヲ感セシヨリ「プレトール」ハ更ニ之ニ擬スヘキ物件ヲ制定シ其缺點ヲ補ヒタリ

(一)外國人ハ市民法ノ所有權ヲ得ルコト能ハサリシヨリ若シ外國人ニシテ其引渡ニ因リ物件ヲ得取シタルトキハ法官ハ物件ヲ得タルモノトシ長期時效ニ因リ遂ニ其所有權ヲ得ルコトヲ容シタリ

(二)州縣ノ土地ハ市民法ノ所有權ノ目的タルコト能ハサリシカ法官ハ之ニ對シ

一種ノ所有權ヲ作リ又長期時效ニ因リ之ヲ得取スルヲ客シタリ

(ii)是レ得取者ノ身分ニ關セス又物件ノ性質ニ拘ハラサルモ讓與方法ヨリ來ルモノニシテ市民法ハ之ヲ認メサルヲ以テ讓與ノ效力ヲ生スルコト能ハサルモノナリ而シテ「プレトール」ハ之ヲ保護センカ爲メ得取者ハ名義上ニ於テ物權ノ所有權ヲ得ルコト能ハサルモ實際ニ於ケル其效力ヲ保有スルコトト爲シタリ此場合ニ於テハ讓與者ハ市民法上尚ホ所有權ヲ有スルモ讓受者ハ物件ヲ以テ其財產中ニ有スルモノト爲シタリ(In bonis habere)例ヘハ(1)引渡ニ因リ Res mancipatio ヲ得タルトキ(2)「プレトール」ノ命令(edicto)ニ因リ相續ヲ得タルトキ(Bonorum possess.(3)辨償スヘカラサル債務者ノ資產ヲ賣買ニ依リ得タルトキ(Bonorum venditio, Bonorum emptor)

第二節　永借權及ヒ地上權(地役ニ準スヘキ「プレトール」制度ノ物權)

永借權(Emphyteusus)永借權ハ他人ニ屬スル物ノ上ニ有スル權利ニシテ恰モ用益權ニ於ケル如ク物件ヲ使用シ又其生產スル所ノ果實ヲ收メテ己ノ所有ト爲スノ權利ナリ然レトモ其範域ハ用益權ヨリモ廣大ニシテ永借權主ハ己ノ利益ニ必要ナリト認ムルニ從ヒ土地ノ狀態ヲ變シ之ヲ修正シ加之其用方ヲモ交易スルコトヲ得永借權ハ唯リ永借權者ノ身上ニ特有ナラサルヲ以テ之ヲ相續者ニ傳ヘ又生存者間ニ於テハ何タル名義ヲ問ハス移轉スルコトヲ得然レトモ永借權ノ所有權ニ異ナル點ハ期限ノ到來ニ因リ或ハ永借權主ノ相續者ナクシテ死亡スルトキ及ヒ一定年間ノ年賦ヲ拂ハサルトキハ消滅スルモノトス

地上權(Superficies)地上權ハ土地上ニ立テル建設物ニ適應セル永借權ニシテ土地所有主ハ地上權ニ依リ甚タ長キ年月間又ハ無期ノ間一種ノ地役ヲ負擔スルモノナリ

第二部

第一章　債務(Obligatio)

債權又ハ債務トハ同一事ノ相反セル兩側ヨリ下セル觀察ニシテ若シ債權ノ何

タルモノナルカヲ研究シ其性質ヲ確定スルトキハ又同時ニ債務ヲ如何ナルモノナルカヲ認知シ其原理ヲ通察スルモノナリ此債權又ハ債務ハ所謂人權ニシテ上章ニ陳述シタル物權ナルモノハ常ニ物上ニ於テ有スル權利ナリシカ人權ハ常ニ人ノ上ニ負ハシムルノ義務ナリトス而シテ羅馬ニ於テハ此人權ヲ觀察スルニ債務ノ一方ヨリシタリ今其「ジュスチニアン」帝及ヒ「ポーリュス」カ下セシ定義ニ依ルニ債務トハ羅馬ノ民法ニ基キ人ヲシテ强ヒテ或物ヲ返辨セシムルコトヲ得ル所ノ法律上ノ索條ナリ (Obligatio est juris vinculum quo necessitate astringimur alicujus solvendae rei, secundum nostrae civitatis jura)

此定義ヲ分解スレハ左ノ三箇ノ意味ヲ含ム

(一)債務 (Obligatio) ハ法律上ノ索條 (Vinculum) ニシテ尋常索條ニハ必ス兩端ヲ具フル如ク茲ニハ二箇ノ主體ヲ有シ一ヲ自動主體ト爲シ二ヲ受動主體ト爲ス此兩者間ノ地位ハ優劣ノ差アリ一ハ他ニ對シ多少服從ノ狀態ヲ現ハシ自然ノ自由ヲ失ヒ之ニ反シ他ハ固有ノ自由以外ニ於テ更ニ特別ナル利益ヲ得取ス此ノ如ク束縛ヲ受ケタル主體ヲ債務者 (Debitor) ト名ケ束縛ヲ爲ス所ノ主體ヲ債權者 (Creditor) ト名ク而シテ債權、債務兩者ヲ繫連スル索條ハ法律上ノ索條 (Vinculum juris) ニシテ法律ハ訴權及ヒ强制執行ナル制裁ヲ創設シ債權者ハ之ヲ利用スルノ便ヲ有ス是レ實ニ法律上義務ノ特徵ニシテ彼ノ單ニ吾人ノ良心ニ放任シ之ヲ干犯スルモ絕エテ德義ノ他ニ制裁ナキ道德上ノ義務ニ異ナル主點ノ端ナリ唯當事者ハ他ノ目的ヲ有スル義務ヲ創定スルカ爲メ既存ノ義務ヲ消滅スルコトヲ得ルノミ而シテ羅馬人ノ觀念ニ依レハ義務ノ主體タル兩者ノ關係ハ固定不動ニシテ當事者一方ノ意思加之雙方ノ協和ニ因リテモ當事者タル人ヲ變更スルコト能ハス又其目的ヲ改新スルコト能ハス

(二)債務ノ目的ハ强ヒテ債務者ヲシテ債權者ノ爲メニ金錢ヲ以テ評價シ得ヘキ行爲又ハ不作爲ヲ爲サシムルニ在リ (alicujus solvendae rei) 而シテ債權者ハ權利ノ目的タル物ト直接關係ヲ生セス又物權ニ於ケル如ク追及優先等ノ特別ナル地位ヲ享有セス債務者ノ資產ハ總テノ義務ニ對シ共同ノ擔保ヲ成スモノナリ是ヲ以テ債務ハ又人權ノ稱號ヲ以テ呼ハレ物權ノ字ニ對立セラル

(三)債務ハ國ノ法律ニ循據スルニ非ナレハ發生スルコト能ハサルコト明瞭ニシ

ヲ此規則ハ殆ト「ジュスチニアン」ノ之ヲ明言スルヲ待タス即チ一國法律ノ認メサル所權利ノ存在スルコトナシ

債務ハ(1)其起源ヲ市民法ニ取レルカ又ハ普通民法ニ取レルカニ從ヒ(2)或ハ之カ制裁タル訴權ノ市民法ノ泉源ニ汲ムカ又ハ法官法ノ泉源ニ汲ムカニ從ヒ(3)或ハ法律ノ制裁ヲ有スルカ又ハ有セサルカニ從ヒ(4)或ハ其契約ヨリ生スルカ又ハ犯罪ヨリ生スルカニ從ヒ之ヲ數種ニ類別ス

(1)債務ニシテ其起源ヲ市民法又ハ通民法ニ取レルアリ甲ハ古昔時代ヨリ羅馬市ノ法律カ之ヲ認メ唯ヲ市民ヲノミ特別ナル法律ノ一部ヲ成スモノニシテ此債務ハ其形式的ナルト狹隘ナルト又嚴密ナルトノ性質ヲ以テ其起源ヲ表徵スルモノナリ例ヘハ儀式的ノ方法(Per aes et libram)ニ依リ結ヒタル金錢ノ貸借即チ Nexum 或儀式ニ從ヒ定メタル言句ヲ用ヒテ債權者債務者ノ應答ニ依リ成ル Verborum obligatio, sponsio 及ヒ羅馬市民カ出納ノ帳簿上ニ記入セルヨリ成ル書約(Litterarum obligatio)ノ如シ

通民法ノ債務トハ羅馬人民カ他ノ進歩シタル人民ト交通スルニ及ヒ其中ニ應

雜報

○最近判例要旨彙報

一一七　裁判上ノ請求ノ意義　民法第百五十三條ニ所謂裁判上ノ請求トハ訴ノ提起ヲ指稱ス(大審院明治三十六年(オ)第八十四號約束手形金請求事件明治三十六年五月五日第一民事部判決)

一一八　相續人選定ノ親族會ノ決議ノ效力　法定又ハ指定ノ家督相續人ナキカ爲メ適法ニ招集セラレタル親族會カ民法第九百八十二條ノ規定ニ則リ既ニ家督相續人ヲ選定シタル以上ハ縱令其決議上相續順序ノ變更ニ關シテ違守スヘキ同法第九百八十三條ノ規定ニ違背セシ點アリトスルモ該決議ニ對スル不服ノ訴ヲ提起シ之カ取消ノ裁判ヲ受ケサル限ハ其選定ヲ當然無效ト爲スヲ得ス(同明治三十六年(オ)第百三十七號不當相續取消請求事件明治三十六年四月七日第一民事部判決)

一一九　株主ノ總會ノ決議取消權　商法第百六十三條ニ於テ總會ノ決議無效ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ株主ニ許シタル規定ハ株主ノ取消權ヲ認メタルニ基キテ決議ノ取消ヲ爲サシムルモノナルコトハ同條第二項ニ於テ取消

ヲ請求スル期間ヲ限定セタルニ依リ明瞭ナリ（同明治三十六年四月六日株式會社總會決議無效宣告請求事件明治三十六年四月六日第二民事部判決）

一二〇　取締役選任決議ノ效力　株式會社ノ株主總會ニ於ケル取締役ノ選任決議ノ效力ハ委任關係ヲ生スルモノニ非ス故ニ其效力ハ被選任者ノ承諾ヲ待タスシテ發生ス（同朝治三十五年（ク）第三百六十七號商法違犯事件抗告事件明治三十六年三月十四日第一民事部決定ニ對スル再抗告事件明治三十六年三月十四日第一民事部決定）

一二一　訴訟告知申出ノ訴訟進行ニ及ホス影響　訴訟告知ノ申出ハ本訴訟進行ノ妨ト爲ラサルカ故ニ裁判所ハ其申出アルニ拘ハラス本訴訟ノ辯論ヲ終結シ得ルモノトス（同明治三十六年（オ）第百十四號松角代金取戻及損害賠償請求事件明治三十六年四月十八日第一民事部判決）

一二二　無訴權ノ抗辯ノ當否　無訴權ノ抗辯ノ當否ハ原告ノ申立テタル事實及ヒ請求ニ基キ判定スヘキモノニシテ被告ノ主張事實ヲ根據トシテ之ヲ爲スヘキモノニ非ス（同明治三十六年（オ）第百七十三號代償金取戻請求事件明治三十六年四月二十五日第一民事部判決）

一二三　給付確認兩訴ノ提起　給付ノ訴ニ於ケル判決ノ理由タルヘキ法律關係カ起訴ノ當時既ニ爭ト爲ルトキハ其確認ヲ求ムル訴ヲモ併セテ提起スルコトヲ得ヘシト雖モ此場合ニ於ケル確認ノ訴ハ民事訴訟法第二百十一條ニ規定シタルモノト全然其趣旨ヲ同シウスルヲ以テ給付ノ訴ノ當否ハ之ニ因リテ決セラルヘキモノナラサルヘカラス（同明治三十六年（オ）第八號公債證券引渡請求事件明治三十六年三月二十四日第一民事部判決）

一二四　給付ノ訴ノ却下ト確認ノ訴　給付ノ訴ニ對スル判決ニ於テ其訴ノ理由タルヘキ法律關係ノ如何ニ拘ハラス請求ノ棄却ヲ言渡スヘキ場合ニ在リテハ裁判所ハ給付ノ請求ヲ却下スル判決ヲ爲スト同時ニ確認ノ訴ヲモ却下セサルヘカラス（同上）

一二五　當事者ノ陳述ト傳聞證言　係爭事實ノ當事者ヨリ親ラ聽取シタル事項ノ陳述ハ傳聞ノ證言ニ非ス（同明治三十六年（オ）第百四十三號私生子認知請求事件明治三十六年四月十一日第一民事部判決）

一二六　訴訟進行中訴權ノ消滅　訴訟進行中訴權ノ消滅シタル場合ニ於ケル裁判ト訴訟提起ノ當時訴訟物現存シテ其訴訟ノ要件ニ缺クル所アリシモノトハ雖モ訴訟中其基礎タル權利消滅ニ歸シ訴權終了ニ至リタルトキハ其訴訟ハ不適法トシテ却下セサ

ルヘカラス（同明治三十五年（オ）第六百七十四號衆議院議員當選訴訟事件明治三十六年三月十八日第二民事部判決）

一二七　差戻判決ノ性質　控訴審ニ於テ差戻ノ判決ヲ爲シタルトキハ事件ハ其審級ノ繫屬ヲ離脫スルモ更ニ本案ニ付キ第一審ノ判決ヲ受ケ其判決ニ不服アル場合ニハ再ヒ控訴スルコトヲ得ヘキカ故ニ其事件ヨリ之ヲ觀レハ未タ終局セサルモノニシテ中間判決タルヲ失ハス（同明治三十五年（オ）第六百四十號株式會社長會決議無效宣告請求事件明治三十六年四月十六日第二民事部判決）

一二八　裁判上ノ自白ノ意義　民事訴訟法第四百十八條ノ裁判上ノ自白トハ一方ノ當事者ヨリ提出シタル陳述ニシテ權利ノ存在又ハ不存在ニ關係スル事實上ノ主張ニ對シ他ノ一方ノ當事者ニ於テ其主張事實ノ眞實ノ承認ヲ言明スル所ノ意思表示ヲ謂フ隨テ同法第百十一條第二項ニ依ル擬制的推定自白ノ如キハ所謂裁判上ノ自白ニ該當セス（同明治三十六年（オ）第六十三號供託證書引渡請求事件明治三十六年三月三十日第二民事部判決）

一二九　再抗告ノ理由　抗告裁判所カ區裁判所ノ決定ヲ認可シ二箇ノ裁判同一ニ歸著シタル場合ニ於テハ抗告裁判所ノ裁判カ裁判所構成法ニ違背シ若クハ重要ナル訴訟手續ニ違背スル如キ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス（同明治三十六年（オ）第九十三號不動產競賣開始決定ニ對スル抗告事件明治三十六年四月二十日第二民事部決定）

一三〇　數人ノ手形債務者ニ對スル支拂命令　同一ノ手形ヨリ生シタル手形債務ヲ負擔セル者二人以上アル場合ニ於テ其債權者カ各手形債務者ニ對シタ支拂命令ヲ發セラレンコトヲ申請セントスルトキハ民事訴訟法第四百九十五條第二項ニ準據シ債務者中ノ一人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ニ其申請ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（同明治三十六年（オ）第五十七號約束手形金償還請求事件明治三十六年四月二日第一民事部判決）

一三一　富籤ノ成立　抽籤ニ因リ當事者ノ一方ニ於テ利益ヲ僥倖スル者アルモ同時ニ他ノ一方ニ於テ損失ヲ被ル者ナキトキハ法律ノ禁止スル富籤ト爲ラス（同明治三十五年（オ）第六百五十六號開運講貯金證拾金請求事件明治三十六年三月二十八日第一民事部判決）

一三二　假處分ノ申請　假處分ノ申請ノ當否ハ一ニ權利ヲ實行セントスル當時ノ現狀如何ニ因リ決定スヘキモノナルヲ以テ時期ヲ異ニスルトキハ當事者

ニ於テ同一權利ノ實行ニ關シ再三假處分ノ申請ヲ爲シ得ヘク斯ル場合ニハ其申請事件ハ各箇相獨立スルモノニシテ同一事件ニ非ス（同明治三十六年(ク)第八十一號判事忌避申請却下ノ決定ニ對スル抗告事件明治三十六年四月四日第一民事部決定）

一三三　死刑ト刑ノ通算　刑法第百二條第一項ノ通算スヘキ刑ニハ死刑ヲ包含セス（同明治三十六年(れ)第四一〇號竊盜及强盜殺人事件明治三十六年四月六日第一刑事部判決）

一三四　官公吏ノ文書僞造　官吏、公吏カ其職務上作成スヘキ文書ト雖モ虛僞ノ事項ヲ記載シテ一箇ノ文書ヲ作リタルトキハ其所爲ハ一箇人カ官公吏タルノ資格ヲ詐リ僞造文書ヲ作成シタルモノニ外ナラス隨テ其所爲ハ官文書僞造罪ヲ構成ス（同明治三十五年(れ)第二四七三號公文書僞造行使公印盜詐欺取財事件明治三十六年三月六日第二刑事部宣告）

一三五　僞證ノ被害者　僞證ニ因リ害ヲ被ル者ハ國家ノ裁判權其モノニシテ判事又ハ裁判所書記ニ非ス隨テ虛僞ノ證言ヲ聽キタル判事及ヒ裁判所書記ハ僞證ノ被害者トシテ僞證事件ニ付キ其職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキモノニ非ス（同明治三十六年(れ)第二四一五號僞證事件明治三十六年三月十九日第一刑事部宣告）

一三六　死者ノ印章盜用　他人ノ死亡後最早其人ノ印章トシテ使用スハカラサル時期ニ於テ其印章ヲ盜捺スルモ之ヲ其人カ生前自己ノ印章トシテ使用セシ當時押捺セルモノトシテ行使スル以上ハ私印盜用罪ヲ構成ス而シテ其盜捺ノ當時ニ於ケル印顆ノ所有者若クハ占有者ノ何人タルヤハ之ヲ問フノ要ナシ（同明治三十五年(れ)第二五二五號謀殺私印盜用私書僞造行使竊盜詐欺取財事件明治三十六年三月十七日第二刑事部宣告）

一三七　委託物隱匿　委託物ヲ費消スルノ意思ヲ以テ之ヲ隱匿シタルノミノ事實ハ委託物費消ノ未遂罪ナリ（同明治三十五年(れ)第二五〇六號竊盜事件明治三十六年二月十六日第一刑事部宣告）

一三八　委託物ノ詐欺取財　刑法第三百九十五條後段ニ所謂詐欺ノ所爲トアル中ニハ其所爲ノ委託物ヲ橫領スルノ前ニ在ルト後ニ在ルトニ論ナク苟モ犯人ヲシテ其企圖シタル橫領ノ目的ヲ達スルコトヲ得セシムルノ手段ト爲ルヘキモノハ總テ之ヲ包含ス（同明治三十六年(そ)第一號監守盜事件明治三十六年三月十日第二刑事部宣告）

一三九　親告罪ニ於ケル告訴ノ性質　刑事訴訟法上親告罪ニ付キ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ要スルハ公訴提起ニ關スル一ノ要件タルニ過キスシテ犯罪構成ニ關スル要件ニ非ス隨テ告訴アリタルヤ否ヤノ事實ハ之ヲ判文ニ掲クルノ要ナシト（同明治三十六年(れ)第二一七號盜通事件明治三十六年三月二十四日第二刑事部宣告）

一四〇　實質上一罪ノ構成部分ノ時效ハ詐欺取財ト官私文書偽造ト併發シタル場合ニ於テ私文書偽造詐欺取財ノ點カ公訴ノ時效ニ罹ルトキハ單ニ官文書偽造ノ點ノミニ付キ處分スヘキモノトス　隨テ私文書偽造詐欺取財カ官文書偽造ト共ニ實質上ノ一罪ヲ構成スヘキ部分ナルノ故ヲ以テ時效ノ效ナシト謂フコトヲ得ス（同明治三十六年（れ）第四號公文書偽造行使事件明治三十六年三月十七日第二刑事部宣告）

一四一　被告人ノ闕席ト豫審判事カ事件ヲ受理シタルトキハ被告人ヲ訊問スヘシトノ規定ハ被告人ノ現在スル場合ニ於テハ通則タルニ過キス隨テ被告人不在ノ爲メ之ヲ訊問スルコト能ハサルトキト雖モ其他ノ取調ニ依リ事件ヲ終結スヘキモノト認メタル以上ハ闕席ノ儘豫審終結決定ヲ爲スモ違法ニ非ス（同明治三十五年（れ）第一五〇一號詐欺取財事件明治三十六年二月二十七日第二刑事部宣告）

一四二　公判開廷請求書ノ不適法ト公判　第一審裁判所カ豫審終結決定ニ因リ正當ニ公訴ヲ受理シタル以上ハ檢事カ其決定ヲ執行スル手續トシテ作リタル公判開廷請求書ニ不適法ノ點アリトスルモ公訴不受理ノ判決ヲ爲スヘキモノニ非ス（同明治三十六年（れ）第二二〇號毀打創傷事件明治三十六年三月二十日第二刑事部宣告）

納付書

爲替番號（　　）

一金

但三十六年度高等科　月分月謝

右納付候也

居所

明治三十六年　月　日

和佛法律學校會計局御中

（注意）校外生月謝納付ノ際ハ必ス本紙ヲ切抜キ居所、氏名及爲替番號、金額、並ニ月謝ノ月別若クハ何月分ヨリ何月分迄ト記入シ爲替劵ニ添附スルモノトス

納付書

爲替番號（　　）

一金

但三十六年度高等科　月分月謝

右納付候也

居所

明治三十六年　月　日

和佛法律學校會計局御中

法學志林

第四十四號　（六月十五日發行）
一部凡價金十二錢郵稅一錢　十部前金郵稅共一圓十錢　校友生徒校外生ハ一部特價郵稅共十一錢十部前金郵稅共一圓

◎本錄ハ本誌ヨリ大改良ヲ加ヘ機敏事項ヲ精選シ紙數ヲ增加シタリ

志林

○最近判例批評（其九）　法學博士　樣濱次郎
○自殺下手未遂ノ處罰　法學士　豐島直通
○課稅權準ヲ命算シタル場合ニ付テ（續）　法學士　若槻禮次郎
○株式會社ノ純會決議ノ無效宣言ヲ目的トスル手續規定　法學博士　富谷鉎太郎
○大日本憲法ノ爲メ瓦斯賣ニ付シタル電代金ニ減額ヲ生シタル場合ニ於ケル差額請求權　法學博士　寺尾亨
○電代金不支拂ノ爲メ瓦斯賣ニ付シタル電代金ニ減額ヲ生シタル場合ニ於ケル差額請求權　法學士　香川勝孫子

解疑

○手形上ノ債務ハ運帶債務ナリヤ　法學士　矢野彥
○電信物規則ノ性質　法學士　松浦鎮次郎
○命令ト公權ノ設定　法學士　松浦鎮次郎
○領事裁判權ト國際私法及ヒ國際刑法トノ關係　法學士　秋山雅之介
○給付所有者ト寄託人ニ對スル運送狀ノ請求　法學士　加藤正治

散錄

○數錄ノ尻馬　尻馬山人

寄書

○法人ノ理事ハ定款ノ規定ニ違反セル總會ノ決議ニ從フ義務アリヤ否ヤニ付テ　能美勝太郎

其他　判例、雜報、記事數十件

發行所　和佛法律學校

（明治二十二年十二月九日內務省許可）
（明治三十五年十一月四日郵三補郵便物認可　毎月十九回一日五日六日八日十日十一日十二日十三日十五日十六日廿日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行）

明治三十六年六月廿六日印刷
明治三十六年六月廿七日發行
（定價金貳拾五錢）

東京市牛込區牛込北町十番地
編輯兼發行者　萩原敬之

東京市牛込區矢來町三番地
印刷者　小宮山信好

東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地
印刷所　金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地
發行所　司法省指定　和佛法律學校
（電話番町百七十四番）